

令和4年3月遠野市議会定例会会議録（第4号）

令和4年3月2日（水曜日）

議事日程 第4号

令和4年3月2日（水曜日）午前10時開議

第1 一般質問

本日の会議に付した事件

- 1 日程第1 一般質問（瀧本孝一、多田 勉、佐々木大三郎議員）
- 2 散 会

出席議員（18名）

- 1 番 小 松 正 真 君
- 2 番 佐々木 恵美子 君
- 3 番 菊 池 浩 士 君
- 4 番 佐々木 敦 緒 君
- 5 番 佐々木 僚 平 君
- 6 番 小 林 立 栄 君
- 7 番 菊 池 美 也 君
- 8 番 萩 野 幸 弘 君
- 9 番 瀧 本 孝 一 君
- 10 番 多 田 勉 君
- 11 番 菊 池 由 紀 夫 君
- 12 番 菊 池 巳 喜 男 君
- 13 番 照 井 文 雄 君
- 14 番 荒 川 栄 悦 君
- 15 番 安 部 重 幸 君
- 16 番 新 田 勝 見 君
- 17 番 佐々木 大三郎 君
- 18 番 浅 沼 幸 雄 君

欠席議員

な し

事務局職員出席者

- 次 長 千 葉 芳 治 君
- 主 査 多 田 倫 久 君

説明のため出席した者

- 市 長 多 田 一 彦 君
- 副 市 長 鈴 木 惣 喜 君
- 総務企画部長 鈴 木 英 呂 君
- 兼新型コロナウイルス対策室長
- 健康福祉部長兼健康福祉の里所長 菊 池 寿 君
- 兼地域包括支援センター所長
- 健康福祉部医療連携特命部長 佐々木 一 富 君
- 兼総務企画部新型コロナウイルスワクチン接種対策室長
- 子育て応援部長 磯 谷 洋 子 君
- 兼総合食育課長
- 産 業 部 長 阿 部 順 郎 君
- 環境整備部長 奥 寺 国 博 君
- 兼まちづくり推進課長
- 会計管理者 鈴 木 純 子 君
- 兼会計課長
- 消防本部消防長 三 松 丈 宏 君
- 市民センター所長 新 田 順 子 君
- 市民センター多文化共生・本の森特命部長 石 田 久 男 君
- 教 育 長 菊 池 広 親 君
- 教育委員会事務局教育部長 伊 藤 貴 行 君
- 兼学校教育課学校総務担当課長
- 選挙管理委員会委員長 菅 沼 隆 子 君
- 代表監査委員 佐々木 資 光 君
- 農業委員会会長 千 葉 勝 義 君

午前10時00分 開議

○議長（浅沼幸雄君） おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

副市長から、午前中、岩手県立遠野緑峰高等学校卒業証書授与式出席のため、欠席の届出があり、議長としてこれを了としたので御了承願います。

これより本日の議事日程に入ります。

日程第1 一般質問

○議長（浅沼幸雄君） 日程第1、一般質問を行います。順次質問を許します。9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 改めましておはようございます、唯一の会派「遠野令和会」所属の瀧本孝一であります。今定例会も、通告に従い一般質問をさせていただきます。

弥生3月、明日は桃の節句ひな祭りということで、市内では「町家のひなまつり」が先月25日から明日までの期間で、商工会女性部などの御尽力で開催されております。

先般2月19日の地元紙の県南版に、「お帰り町屋の内裏びな」という見出しで、中央通りの老舗菓子店さんの内裏びなが、昨年5月8日に発生した商店街裏の火災のもらい火により土蔵が被災全焼し、焼失したかと思われた中で、箱に入っていた和紙に嚴重に包まれていたことで、奇跡的にも消失を逃れたものの消火による放水等で濡れたりしたため、修復を終えて戻ってきたという記事が大きく掲載されました。昨年5月13日に、「ひな人形奇跡の救出」という記事でも大きく報道された内裏びなであります。

遠野の町家の歴史を静かに見守ってきた老舗有名菓子店さんの内裏びなは、火事後、全焼した土蔵の中から発見された当時の新聞記事にもびっくりしましたが、修復を終えて4代目のおかみさんの元に戻り、100年近く受け継ぐ家宝の復活は、再起の途上にある関係者と新型コロナウイルス感染症拡大の影響に苦しむ地域の希望になると伝えておりましたが、市民の1人としても誠による喜びに堪えません。

さて、前回12月定例議会で、私は危機管理の認識についてという一般質問をさせていただきましたが、私の質問に対する市長の答弁を見ていた市民の複数の方々から、「顔色が変わったっけ」とか、「感情的になっていたっけ」とか、「むきになって言い訳がましく聞こえた」とかの御意見をいただきました。

私は、事実を淡々と述べ、自治体トップとしての危機管理に対する姿勢を質問したつもりでしたが、答弁目安時間をかなり超過され、はたから見ても感情的になって答弁されていたと思われた姿に、御自身に対する検証の必要はなかったでしょうか。

特にも、一般質問通告書が提出された後、職員が質問の内容を個々に聞き取り、時間がない中で必死になって答弁書を作成していると想像していますが、市長御自身の言葉で質問の趣旨

に沿って答弁されることは何ら異議を唱えるものではありません。しかし、誰にでもいろいろな感情はあるとしても、質問の中身から逸脱し、頑張っただけの答弁要旨を作成している職員の献身的な努力を信頼して見守り、育て育む姿勢と、その努力を無にすることのないような答弁を、議場という場の中で冷静で的確な答弁をされるよう最初に強くお願いをしておきます。

それでは、今回も次の大項目2点の質問をさせていただきます。

1項目めは、市長に対し、22日の本会議初日に示された市政方針演述について、そして2項目めでは、学校図書館法改正後の学校司書について、教育長に一問一答の形式で答弁を願うものであります。

それでは、通告に従い、大項目1点目の施政方針演述についてと題した質問に入らせていただきます。

20ページにわたる演述を聞いての第一印象は、おおむねこれまでの前市長時代からの継続順事業が総花的に羅列されており、ほとんど目新しさは感じられず、市政の刷新を掲げられて就任した市長のカラーに期待した市民の反応が気にかかる場所でもあります。

来年度の予算のキャッチフレーズは、遠野の未来開拓予算と銘打たれていますが、個人的には、これまでの事業継続予算と捉えられ、未来開拓にかける姿勢や本気度があまり伝わってこないと思うのは私だけでしょうか。

さて、順次質問に入っていきたいと思います。幅広い見識と深い知識をお持ちの市長にお尋ねするのは甚だ失礼かと思いますが、市長は、「政治は欲望の調整作業である」と言った有名な政治家を御存じでしょうか。政治は欲望の調整作業、まさに言い得て妙、これを末端自治体に置き換えれば、行政は住民の希望・要望・願い事の調整作業とも解釈されるのではないのでしょうか。

そのような観点から伺ってまいります。

はじめに昨年12月に市内11カ所で開催されたみんなの井戸端会議の結果等についてでありま

すが、一昨日の新田勝見議員をはじめ、複数の議員の質問とも重複する部分も多いとは思われますが、さらに理解を深めるために御容赦をいただき、答弁を願うものであります。

その参加人数等も含め、市民から出た意見の概要や感想と、これから意見要望をどのように市政に反映させ、実現させていくのかについてお尋ねをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） おはようございます。

はじめに、現在、ウクライナが侵攻されている中で、こういうときこそ日本のおいしいお米をウクライナまたは支援をしている周辺国家に送っていただきたいなというふうに思います。せっかく備蓄している、日本の農家が作ったおいしいお米なので、有意義な活用していただければと強く願います。

そして、もう一つ、今の戦争を止めるために、ロシア兵個々がそれぞれの判断で戦闘やめるという判断、選択肢もあるので、この点について、世界中の人に呼びかけていただければありがたいというふうに考えています。

ではもう一つ、今日で一般質問が終わりますので、遠野の、一輪車の団体があります。全国で優勝しました。とてもすばらしいことだと思います。団体の部、ペアの部、それぞれ優勝です。すばらしいなと思います。1月30日に高崎で行われた大会だそうです。全国大会です。すばらしいことだと思います。

そして、今日また緑峰高校の卒業式で、49人の生徒さんが旅立っていきます。本当におめでとうございます。

ただいまは、瀧本議員からありがたい御教示をいただきましたので、心から感謝申し上げます。様々な感情、思いはあるでしょうけども、人間はお互いにお互いを尊重しながら、議論も共同生活もするべきだというふうに私は考えております。

さて、みんなの井戸端会議でございますが、366人の方が参加していただきました。219件の

御意見いただきました。これらは、前々日ですか、新田勝見議員の御質問の中でも答えさせていただきましたが、しっかり記録をし、精査し、各地区センターにもお配りしております。

そして、すぐできることはすぐ対処しました。私も、現場をすぐ次の朝、見に行ったりしております。青笹町もそうでした。松崎町もそうでした。その中で、やはり現場にいて心配してくれている地域の方、御父兄の方もいて、お話もできて、今はこういう形でいいよとか、いろいろその地域の御努力というのは深く感じておりました。

私の施政方針演述で、さっぱり継続でということでありましたが、財政にしても様々な取組についても、刷新といっても、昨日までやってきたものを「はい、こうなさい」というふうにはできるものではございませんし、そういうふうにするものでもございません。刷新というのは、これからしていくということです。

もう一つ、予算についても、これからつくっていく。そういうふうなことはもう多分、瀧本議員は思慮深く考えられて容易に理解していることだと思います。

その上で、様々な施策を実施していきます。昨日も申し上げましたが、見せるための予算は編成しません。これから、実際しっかりやっていくべきものをしていくというふうに考えて進んでいきたいと思っております。

そのためには、昨日も申し上げましたが、人生意気に感ず。それと、楽しい環境をつくっていく。こういうことが私は大事だというふうに思っています。そして、欲。この欲というのは本当に大事なところで、まあいいお話だったと思うんですけど、私の欲は、遠野市をよくすることなんです。もう、それだけです。そのためだけにやっていきたいと思っておりますので、どうぞ瀧本議員も一緒に、様々な欲をお捨てになって、遠野市のために御尽力いただければありがたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） ウクライナのことも懸念されますし、一輪車の優勝も、私もすばらしいなと思っております。

井戸端会議の件で、366人、218件ということは、意見提言集からも分かりますけれども、それについて市長は次の日、現場を見たりしたというお話でした。いろいろな市民の欲望、願いに答えていくのが、当局と議会の協力の下でそうになっていけばいいというふうに思います。

この各地区から出された218件の意見や要望に全て答えていくことは不可能だと思いますが、これらをどのように調整し、市民の要望に応えていこうとするのかについて伺います。また、地連協や地区センターから出された書面での意見や要望には、まとめの意見提言集には反映されていないようですが、この件数や取扱いをどのようになされていくのかについてお尋ねをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 市民の御要望、これは本当に全てにお答えしていきたいというふうに思っておりますが、昨日も申し上げましたように、道路や様々な、何ていいますか、ライフライン、施設、これらについては遠野市の長期計画の中で組み込んでいかなければいけないことだし、新たに出てくるものであれば、それをさらに組み込んでどういうふう to 実施していくかっていうことが出てくるものであります。

これは、この間も申し上げたとおり見直していきましょと、0.1%、これが毎年0.1%しか進まないものであれば考え方を変えましょ。除雪もそうでした。これも、予算のつくり方変えましょと、私、はっきりと申し上げています。これは、変えていくという宣言でもありません。

地区センターに関すること、施設のこともございます。様々な運営に対することもあります。これは、地区センター個々に当たっていかなければいけない。そして、伴走して解決していかなければいけないことです。時間、すぐできる

こと、お話し合いをしながら進めること、様々あります。その辺についても、確実にやっておりますのでどうぞその際にはよろしくお願いたします。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 変えていくということで、一緒に頑張っていこうというお話でございました。以前の市長と語ろう会と違って、私の参加した地元の会場を含め、遠野テレビを見ていた限りでは、他の地区でも市長がどんと真ん中に座り、出席者からの質問に対応していましたが、そこには市職員の姿が遠慮がちに、脇のほうやひっそりと後方に目立たないように参加していたというのが印象的でありました。

私は、ある意味、多田市長はざっくばらんで気さくで庶民的で分かりやすい言葉遣いの方などは認めますが、その上で、もっと市職員を前面に出し、職員を信頼して市民とのやり取りの中で成長の機会が得られる場面にするべきだと思います。

個人的見解の相違と言えればそれまでですが、大衆的とはいえ、行政としての品格というか、重みの感じられない井戸端会議という名称を使って今後も同じような運営スタイルで開催していくものなのかについて見解をお尋ねいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 一つ、ちょっと気になったのは、品格のないというお話がありましたので、品格のないものだったのか、そういう御質問が品格がないのか、ちょっと計り知れないところでもあります。

これまでの井戸端会議、市長と語ろう会というものがありません。私は、職員とミーティングをしました。どういうふうにしましょかと。職員の人に、ファシリテートしてもらってやりましょか。そして、みんなで答えるようにしましょか、前に座ったらどうですかとか、様々議論しました。

これまでは、市長さんが司会をして職員が答えるという方法だったということでした。これ、私が就任して1カ月、2カ月、この間に井戸端会議を開催したものです。そこまでに、各関係課、担当者としてしっかり議論をする時間というのはあまり取れておりませんでした。

そこで、職員が考えたのは、市長が対応してフリートキングで答えてください。私たち、今まで回答しなければいけなかったんですけど、それってとても違和感がありましたと。その答えによっては大変なことになるし、責任の重みもあるし、そりゃそうだろうなあとは思いました。じゃあどうしようかと。

私たちも、市民の方が質問したり提案したことに対する市長の考えを一緒に聞いていたい。それによって、コミュニケーション、まだ取れてない時間の穴埋めをできると思いますと、そういう話をいただきました。それならば、そういうふうにしましようということ、そういうふうになりました。

ただ、ざっくばらんに御質問していただければ、例えばここに総務企画部長がいて、各地にも同行しました。そのときに、総務企画部長、これどうなんだ、今の多田一彦、話できるかと、話しやすいか、そういうことまで聞いていただいても全然オーケーです。何を聞いていただいてもいいというお話で始めたと思います。

どんどん、これから様々な機会に、今も馬の方と話をしたり、色々やっておりますが、ファシリテートしてるのは、もう既に課長とか係長さん、もしくは主事さんがファシリテートをするように変わってきております。

これから、その点についてはお楽しみにしていただければ、そして自由に参加できる環境はどんどんつくっていききたいと思っておりますので、御期待ください。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 私は、品格はないと言っははしませんので、そこだけは十分あれしておいていただきたい。品格というか、重みの感

じられなかったというふうに話をしましたので、それはそれとして、やり方はいろいろあるでしょうから、それはそれでいいと思いますけれども、私も今までとちょっと違和感があったものでこういう質問させていただきました。

次に、財政健全化に向けた具体的な取組について伺います。

施政方針演述では、市政運営方針の2点目として、昭和40年代から50年代にかけて整備した多くの公共施設が一斉に老朽化による更新時期を迎えており、その維持修繕には莫大な費用が必要であり、このままでは健全財政を維持していくことが難しくなっておりまして述べられ、遠野市公共施設等総合管理計画の中間見直しを行っており、役割を終えた施設については取壊しあるいは民間への譲渡を進め、そのことが地域活動や市内経済の活性化につながっていくよう、様々な角度から検討を進めてまいりますと表明されています。

遠野市の財政状況は、他の自治体とどのような違いで健全性が劣っているのか、検証されたんでしょうか。公共施設の老朽化だけが財政を圧迫しているような表現ですが、それで間違いがないのでしょうか。財政の健全化ということは、自治体運営上で非常に大事な部分ではありますが、公共施設の見直しだけが財政の健全化に向けた取組という表現には大いに疑問を持たざるを得ません。

あたかも遠野市の財政状況が危機的状況にあるようなこれまでの市長の言動は、市民に不安な思いを抱かせるに過ぎないと私は思っています。もっと具体的で説得力のある健全化への取組の内容を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私の受取り方が悪いのか、言葉の意味の解釈がどうなのかというのはお任せしたいと思っておりますが、先ほど冒頭に、冷静に顔色を変えずにやってくださいということがお話ありましたので、そのことをちょっと思い出しながらお話をいただければありがたいと

思います。

財政の健全化というのは、常に考えて目指していかなければいけないということです。

そして御存じでしょうか、水道設備、下水道もあります。もう令和2年には経常収支の部分で赤になってるんです。そして、令和6年には、その資産の部分でも逆転していくんです。汚水、これも同じです。財政健全化指数では、まだまだ職員の努力でマイナス、最低のところまで転落していません。でも、これは職員の努力です。

これまでに分析をしていけば分かるんですけども、なぜ市民の方々から道路の問題、水道の問題、水路の問題、それこそコロナの経済対策、農業の対策、これほどまでに出てくるんでしょうか。

この辺のところをしっかりとやっていくというのは、本来行政の役割でございます。これをやっていたら、とっくにとんでもない状態になっているんです。

十分にやれてないから、何とかその計算をぎりぎりのところで守ってるから今の状態で見られるんです。

私が就任して、予算の話をしました。そのときに、職員が私に必死に訴えていました。これから大変な部分、こうです。でも、ここは死守しました。いや、大変な苦勞をしながら、財政予算獲得しながらやってるんだと。でもこれ、できないんです。こういうところを切らなきゃいけないというのはつらいんです。こういう点がたくさんありました。多分、市民に対して言いたくても言えない部分です。私は、その気持ちを痛いほど感じました。だから、あまり財政、厳しく言いたくないとそのとき思いました。

しかし、今まで皆さんが要求してきたことが、全てちゃんと市民が満足するようにできてる体制ではないです。

本当はやりたいんです。このことを考えても、本当にお金がないのかと、こんなことは分かるじゃないですか。

健全じゃないとか健全であるとかという議論をするよりも、どうやってそれをやっていくか

ということ、そのためにみんなが血を流さなければいけないこともあるんですよと、そういう議論をして市民に訴えていくのが議会ではないでしょうか。

私の説明では不十分かもしれません。すぐ刷新した予算を編成しないというのは、先々日、一昨日も申し上げました。その間、担当職員はお金を遊ばせたりしません。

読み上げます。職員が書いてくれたものもしっかり尊重しろというアドバイスもありましたのでそのようにしたいと思います。

令和3年度一般会計補正予算（第9号）において、今年度負担を減らすため、市債残高の繰上償還を実施した。

市債の種類によっては、毎年度の元利償還金額に応じ普通交付税算定に加算されるものがある。今回、繰上償還しようとする市債は、今後の普通交付税算定に影響なく、利子償還金の削減につながる。

また、今後施設改修等に対応するため、公共施設等整備基金への積立金を1億円計上したところ、この積立てにより公共施設等整備基金の令和3年度末残高見込みは2億7,500万となり第4次健全財政5カ年計画の目標額と比較し、1億5,700万円上回る見込み。

令和4年度予算編成に向けては、経費の最適化を維持し、政策的事業への予算の重点化を図るため、これ、準備ですね。経常的経費に係る一般財源については、前年度比マイナス2%とする枠配分予算要求方式を実施したことにより、2,700万円の削減効果があった。

さらに、各種団体への補助金や負担金について、過大な支出とならないように運営や事業に係る決算条項状況を確認し、見直しを行った結果、1,800万円の削減効果があった。

令和4年度の取組としては、第4次健全財政5カ年計画に基づき、使用料、手数料等の見直しに取り組みなければもたない。ふるさと納税においては、充当事業の明確化やPRの充実等に取り組み、前年度当初予算と比較し4,100万円の増収を見込んでいる。

こういうことです。この数カ月の短期間に、私からオーダーのあったことについて、精査しながら準備のための予算としたい。ここに対して、これほどすばらしい取組をしていただいています。御理解いただければありがたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 職員の御努力はちゃんと認めております。教育長にも答弁をいただく部分もありますので、2人で30分以内になると思いますのでよろしくお願いいたします。

あまり時間もなくなってきましたので、次に進みます。

次に、171億1,000万円で編成された来年度の当初予算のキャッチフレーズは、遠野の未来開拓予算と銘打たれていますが、個人的にはこれまでの事業継続予算と捉えられ、未来開拓にかける姿勢や本気度があまり伝わってこないと先ほども申し上げました。

施政方針の中で、市長は公約に掲げた「市民の命と暮らしを守る」の実現に向け、これまでのまちづくりの取組を大切に、新たな試みに向けた切替え予算でもあると述べていますが、ほとんどこれまでの事業継続予算の中身のどこが新たな試みに向けた切替え予算なのか。

昨日の同僚議員の答弁では、これまでの取組から一旦ニュートラルな姿勢に立ち戻り、そこから新たな取組をというようなニュアンスの答弁と感じましたが、私も新たな切替えの予算という意味と具体的な内容について伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 若干、御理解いただいていないんだなというところがあります。それをなくして、いきなり次を生む。組織変更もする。人事異動もして、新たな計画立案に取り組んで進むと、チーム力を活かしていく、そのために見せかけの事業はつくらない。こういうふうに申し上げております。

同時に、計画、私が掲げてきた公約というの

は、遠野市の総合計画の中でもしっかりとうたわれていることです。昨今の各地方の、または地方自治体の課題を見たら同じようなことがたくさんあるでしょう。問題は、様々なことを実行していくかどうかということです。

例えば、大綱1、自然景観や雰囲気のある町並みの良好な保全や形成を図る、こういうところがございます。これは、2006年の遠野市総合計画、そして第2次遠野市総合計画、前期後期ございます、全てにあります。

自然景観、雰囲気のある町並み。これをどうやっていくかと、差し支えなければ瀧本議員のイメージを教えてくださいたいのですが、ここは御質問できるのでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） その反問はできません。

○市長（多田一彦君） 反問はできない。

○議長（浅沼幸雄君） 反問はできません。

○市長（多田一彦君） 分かりました。それでは結構です。

つまり、毎年度、毎計画でこういうことが出るといことです。ほかのこともそうです。農業のこともそうです。産業のこともそうです。それは、何を意味しているのでしょうか。

永遠の課題だということであれば、それはもう、もちろん永遠の課題ですが、どういうふうに進歩していったか。御自身が、これの分析ができていくかどうか。そして、もう1つ書いております、みんなで支え合うまちづくり。住民主体の地域づくり。私が言ってるのは、これを本当にやりましょうということです。本当に、一緒にやっていただけませんかということです。

もう1つあります。大綱1の自然景観、雰囲気ある町並み、このところで、乱開発、再生エネルギー、これを進めなければいけないが、乱開発による河川の、土砂の流出とかそういうことも防止しましょうと、書いています。2006年から書いています。

これについて、最近、地域住民からの要望もあったはずですが。そのとき、私も住民の相談に乗っていました。私も一緒をお願いしていました。議会にもお願いもしました。

瀧本議員はそのとき、住民に対して、何も、頑張っているのだから様子を見るというお答えをしたと記憶しています。

私が言いたいのは、そういうことを解決していくということです。これをやっていかなければ、いつまでたっても進歩しません。

時間がないということでしたので、さらに小さな交通網。これについても、ずっと載っています。じゃあ、具体的にどうしたのか。

農林畜産業、同じです。私は、それをしっかり市民の方々、農家の方々、地域の方々と一緒に自主性を尊重しながら取り組んでいきたいと思いますと言っているんです。

○議長（浅沼幸雄君） 市長。まだ、そこまで質問になっておりませんので、答弁書の中にはあるかもしれませんが。

○市長（多田一彦君） これすみませんが、質問に対してではなくて。

○議長（浅沼幸雄君） 時間が、目安ですけれども、答弁時間30分という目安がございます。もうひとつ、教育長の答弁の時間もありますので、おっしゃりたい気持ちは分かりますけれども、一応目安の時間もございますので、その辺も配慮した答弁をお願いします。

○市長（多田一彦君） 分かりました。総合的に、私はそういうふうを考えているということをお願いしたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 一問一答という質問をやって、やり取りしてるわけですから、大分先まで答弁をしていただいたようではありますが、聞かれたことに対して簡潔にお答えをいただければと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 瀧本孝一議員、それは議長である私のほうからも指摘しますので質問に入ってください。

○9番（瀧本孝一君） すみません。具体的な切替え予算という意味、いまいち分かりませんが、次に、大綱別の取組についての中の大綱1、自然を愛し、共生するまちづくりのと

ころで、市長は私たちがこれまで守り受け継いできた自然環境、景観や恵みを育てる農村景観、宿場町、城下町の雰囲気を残す町並みの景観はかけがえのない市民共通の財産であることから、良好な保全形成を図ってまいりますと述べています。

これには何ら異論を挟むものではありませんが、人口減少、高齢化社会の中で、自然景観や雰囲気のある町並みの良好な保全や形成をどのように図っていくのか。その具体的な施策の中身について伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） そもそも私が先ほど答弁した答えは、全体的に大綱、遠野市の基本計画の中でそういうふうにしていかなければいけないという、基本的な考え方を申し上げました。繰り返しますが、みんなで支え合う、地域主体の地域づくり、住民主体の地域づくり、乱開発を防止する、基本計画を尊重しつつ、そういうことを聞いて、手を施さないということではなくて、課題を見過ごさないで、しっかり向き合っていくということです。そのアクションと一緒にやりましょうというのが私の考え方でございます。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 理念は分かりますがけれども、なかなか具体的な部分では出てこないという感じであります。

次に、同じ大綱1の「総合交通対策では」で、市長は廃止バス路線の代替運行と市営バスの運行について、地域の特性を踏まえながら高齢者や障害者がより利用しやすい交通システムを構築し、地区センターの活用も視野に入れながら小さな交通網の実現を目指すとして述べています。

確かに、当市のようないわゆる田舎にとっては、高齢者や免許返納者等生活弱者にとって、公共交通の衰退は極めて大きな問題ですが、国土交通省等の大きな壁をはじめとする様々な規制のある中で、民間事業者等の存在も考慮しな

ければなりません。

この小さな交通網の構築への具体的な中身について、市民の皆様の一層の理解に結びつくような見解をお尋ねいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私が申し上げてる考え方が若干まだ御理解いただいていないなという思いがしますが、この小さな交通網というのも、長年書かれてあるものです。

具体的なことが浮かばないと先ほどおっしゃってございましたけども、つまりイメージがないということです。そうじゃなくて、私はみんながイメージできるような形、そのみんなのイメージをつないでいく。その中で、合理的に計画を立てていくということ、そのためにお話を聞くということです。

ずっと前から、この交通網に関して、もしくはその前の御質問のことにに関して考えているのであればそれなりのイメージはお持ちでしょうから、私が申し上げたこととイメージを重ねることはできると思います。

つまり、いいことを言っていたいなと思うのは、そういうイメージをしっかりと地域住民の方も、もちろん瀧本議員も持っていて、イメージを重ね合わせて議論をしていくということができるようにしなければ具体的に進まないということです。

小さな交通網は、もう計画で名前は載ってるんだから、話合いとかいろんな相談をしているところもあります。そこに私、もっと入って行って、これから私が思っている部分の提案とか、そういうものをしていきたいと考えています。

もっと御意見をお持ちのようであれば、またはイメージがあれば、これらを役に立たせていただければと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 想像力がないということでありましてけれども、従来から課題に乗ってきて、総合交通対策という中でやってきてるこ

とは私も十分承知をしております。

次に、大綱3の活力を創意で築くまちづくりの中では、当市の基幹産業である農林畜産施策や産業観光のことに触れていますが、特にも農業分野では高齢化、後継者難による離農や耕作放棄地が増え、米価の大幅下落や資材燃料等の高騰もあり、農業を取り巻く環境は非常に厳しいものがあることは市長もお分かりのことと存じます。

その中で、農業経営の見える化や農業起業塾の開設、そして農業人口の拡大を図るなどとされていますが、農林畜産施策に係る多田市長の特徴的な取組、いわゆる「多田カラー」の具体的な中身と、離農者が増える中であって農業人口の拡大を目指そうとしています、本当にそれが図れるものかについて伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 結論から申し上げて図れます。これからいろんな施策、提案をしてみたいです。

農業起業塾、これ、これからの生き方が変わる時代、価値観が変わる時代では本当にいいですよ。議員お住まいの地域も、本当にすばらしい景観と色々なポテンシャルの高さがあります。

特にワサビ、これに関しては、私、様々な意見交換をワサビ関係者としておりますが、これ、生産する農地を増やすというのは、まず絶対必要です。それと、生産計画とともに販売計画、その営業方法、これの相談をするということが必要です。

今、何度か私は言って、お伺いして話をしていますけども、そこにまだまだ至っていないので

またホップ。ホップに関しても、今度は少し販売単価が上がりますか。ですけども、トン数は昨年28トン、1億あったものが8,000万円、ここまで下がっています。農家も減りました。これを増やしたいと思います。

それから、今年はとにかく作付面積、耕作面

積も増やしたい。そういうふうには計画していません。それによって、収穫トン数が変わってくるので上がっていく。これ、どうしても今、28トンですが、45トン、60トンにしていかなければ、次の施設の整備ができない。そのために、私は関係者と一緒にその方法論をもう相談し始めております。

畜産に関しても同様です。どうすれば畜産業者さんが。遠野の57%が畜産業者さんです。本当に大事なことです。ただ、それを支える畜産公社もしっかりとしていかなければいけない。そこの立て直しもしなければいけない。同時に、生産者さんの利益拡大を目指した話合いと取組をしていく。

ほかでも、企業的農業、企業的畜産、集团的農業畜産、これらに向かっていきます。

圃場整備もあります。問題を抱えて止まっている圃場整備もありました。積極的に現地に行き関係者と話し、方法論を模索してできる方法を探しています。恐らくそれでできるだろうと思っています。

どんどん進んでその課題に入っていくって、私は課題を一緒に解決して進めていきたいと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 大いに期待をしております。よろしく願いいたします。

次に、大綱5、みんなで考え支え合うまちづくりの中の健全化財政における、歳入確保策の使用料・手数料の見直しと、ふるさと納税の取り組みについて、お尋ねをいたします。

施政方針演述では「第四次遠野市健全財政5カ年計画」の着実な推進と、事務事業や使用料、手数料の見直しを進めるとともに、市税の収納強化、ふるさと納税の魅力化や裾野の拡大により歳入の確保をはかってまいりますと述べておられます。

私は、過去の一般質問や委員会質疑の中で、自主財源の確保の重要性の観点から、これまで何度も訴えて来た経緯があります。広報遠野へ

の有料広告の導入、市ホームページへのバナー広告の導入、そして平成26年6月議会で提言した、ふるさと納税制度が平成28年10月から実施され一定の成果を上げ、自主財源確保へ貢献していると認識をしているところであります。

ところで、使用料や手数料の見直しということは、すなわち値上げであると思われませんが、どのような項目の使用料や手数料を見直すのか、時期はいつ頃なのか、値上げの幅はどれくらいなものなのか、市民への経済負担につながらないか等、現時点で答弁できる具体的な内容をお尋ねいたします。

また、ふるさと納税については企業版も含めこれまで順調に伸びて来たと思っておりますが、返礼品に係る事業者等へのいい意味での影響もそれなりにあったのではないかと推察してまいります。

それらを踏まえ、今後どのような施策で魅力化や裾野の拡大につなげて、より以上の歳入の確保を図って行こうとするのか、その辺りの見解をお尋ねいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 考え方、すぐお分かりいただくっていうのは難しいんだなというふうに感じていますが、自主財源というのは増やさなきゃいけないですよね。これまでも今議会では、私は自主財源を増やすということと同時に、地域、市内の事業者さんに事業をできるところはしていただいて、遠野市の歳入にも結び付けるっていう話もしてあります。それと、賃料の見直しとか、そういうものっていうのは、独断でやれるものかどうかってものがあるから、議会でこれをこのようにしたいというふうに申し上げるべきものなのかどうかということに、私は若干、今の段階で疑問がありますが、つまり、水道料金、下水道料金とか水道は増やしていかなければいけない部分もあるし、改修もしていかなければいけない部分がある。昭和45年、50年に水道一気にやったから、令和2年にはもう逆転してるんです、大幅に。令和6年には、

さらに進むんです。

そういうところをどうするかっていうこと、しっかりと共通理解した上で考えなければいけないから、皆さんの御意見をいただく機会を作りますというのが、今回お話ししてるところでございます。

もう一つは、第三セクター、外郭の収支経営改善っていうことが大きなことでございますから、経営分析をしております。これも今までしっかり分析ができていないです。私が求める資料が準備できていない部分が多いです。ということは、分析する要素がないということなので、その辺を作成していただいています。

それによって、どういうふうにしていけば適正なのかってことを考えなければいけません。イコール、全部上げるのか、いや、上げなくていいものもあるはずで、そういう見直しをしっかりとしていけば、上げなければいけないものがあるのか、これをしっかりと認識して行って、議論をしていかなければいけないというのが、行政であり議会だと認識しています。

そういう意味で、将来じゃあこれは多田市長になって、すぐお金の話しはしたくない。おそらく前政権も、これまでその部分にメスを入れなかったのは、したくなかったんだと思います。すごく気持ちはわかります。市民のために負担をかけたくない。ただ、それを問題を明確にしなければもっと先で、もっと大きな問題になることがあるので、それは現状維持でも構わないので、問題だけは認識して下さい、こういうことは必要ではないかと私は思っています。それが見える化です。

これから皆さんの御意見をさまざま頂戴していきますので、その辺もよろしく御協力をお願いします。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） どうもこう市長の理念といいますか、みんなで一緒に考えてこうやっていきたいという部分はわかりますけれども、具体性が見えてこないという意味で、私はこれ

まで質問してきたつもりです。そこら辺を簡潔に答弁いただければ、私はなんら文句はないんですけれども、理念は理念としてわかりますよ。みんなで一緒に考えてやっていきたいと思います。それはいいことだと思いますけども、でもその前にみんなで考えて、市の方針と違ったらどうなるかという部分も心配されます。そこをもう少し具体的に答えられてもいいのではないかなというふうな思いであります。

次に、市長への最後の質問ですが、答弁時間がないようですけども、答えていただけるかどうかわかりませんが、施政方針演説の結びの最後に、新型コロナウイルス感染症対策に対する市民へのお願いについて述べられていますが、あの「〇〇してはいけません」的なお願いは、全く当然のことであり、市内にもオミクロン株と思われる感染者が確認されている状況の中で、あまり緊迫度のないお願いであり、市民への説得力は薄いと私は断言します。

そして先般、1月31日の遠野テレビで、市内に感染者が発生したため市長からの緊急放送がされましたが、2月15日の全員協議会で配布された「新型コロナウイルス感染症対策に係る取組等の状況について」という資料では、2月1日の岩手県の公表となっており、居住地を明らかにしてほしくない感染者にとっては、1日の違いとはいえ、時系列的に見て遠野市という居住地をテレビで放送したことは、明らかに勇み足だったのではないかと思います。

このことについて、通告をしていないので答弁はあえて求めませんが、説得力に欠ける市民へのお願いをどのように検証され、今後更なるコロナ感染症対拡大防止に向けて、市民に対して納得のいく取組・周知についてお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 通知してないということでしたので、答弁なさらなくても結構ですが、よろしいですか。

○市長（多田一彦君） はい。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） それでは、御答弁いたします。

いろんなとき、冷静に市民を焦らせずに対応していかなければいけないし、報道もしていかなければいけないと思います。それにどのような理由でそういう報道に至ったかということも危機管理の部分で、職員、チームで考えているわけです。今度、その部分について、どういう理由でこうですって申し上げる過程で、またさらにこれは、深いところの理由を説明しなければいけないということになっていくわけです。ですから、敢えてその辺のことは言わない、そういうふうに考えておりますが、報道の仕方に関しては、チームみんなで話し合いながら真剣にやっております。できるだけ公表をしてくださいということも進めておりますが、公表したことについては、本人が遠野市というふうな公表しているもの以外はしておりません。その辺も冷静な御判断を頂戴できればとお願いしたいところです。

また、前段で瀧本議員は本当にいいお話しをしていました。そのとおりだと思いますので、そのように進めていくのがよろしいか、議会としても市長としても市民にそういう真摯な努力、真正面から議論する姿勢を見せていきたいと思っておりますので、新米ではありますが頑張りますのでよろしくお願ひします。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） それでは、次に大項目2点目の学校図書館法改正後の学校司書についてと題し、教育長に質問をさせていただきます。

児童生徒の数が減少の一途をたどる中で、教育環境の変化は著しいものがあり、加えて我々の小学校時代には想像もつかなかったICTの普及により、一人一台のタブレット端末を利活用しての教育の時代となりました。

しかしながら、いくらICT社会やデジタル社会が進歩しても、読書を通じて知識を得るという行為は、幼少期から人生の晩年に至るまで、目には見えないものの、その人の様々な面に大

きな影響を与え得る、極めて大事な知識習得の場であることは誰もが認めることだと思われま

す。
本会議初日の遠野市教育行政推進の基本方針では、政策の第3の施策の1つ目の中の方針の2つ目で、図書館活動の推進ということで、第4次遠野市子どもの読書活動推進計画に基づき、子どもたちが読書に親しむ機会を広げるため、小中学校、児童館、福祉施設等への貸出し図書の実と、移動図書館車の効率的な運行に努めるとともに、児童向けの映画会を定期的に開催し、視聴覚教育の実をを図るなど、図書の推進と利用しやすい図書館を目指してまいりますと演述されましたが、残念ながら学校司書等の活用については言及がありませんでした。

世界的に著名な建築家の安藤忠雄先生が、東日本大震災による東北地方の沿岸部の被災地の子どもたちの心の場の復興として、私財を投じて本市に建築寄贈いただいたことも本の森遠野には、読書を通じて過去を学び、今を考え、未来を想像してほしいとの安藤先生の強い願ひが込められています。

ところで、昭和28年法律第185号によって施行された学校図書館法は、その名のとおり学校における図書館や図書室の実のためにつくられた法律であり、その役目を果たしてきましたが、平成26年4月に超党派の国会議員で設立された学校図書館議員連盟の活動などにより、時代の流れに合わせ一部改正が行われ、平成26年6月の交付、翌27年4月1日から施行されました。

その改正の中では、第6条を新設し、学校司書という身分が明文化されて法的に位置づけられ、その職員を置くように努めなければならない。また、資質の向上を図るため、研修などの実施に努めることなどとされていると認識をしています。

そこで教育長に伺います。平成27年4月1日から一部改正施行された学校図書館法における、特にも学校司書の法的位置づけ、明確化の御認識と、施行から約7年が経過しようとしていま

すが、これまでの当市の小中学校等への学校司書職員の配置等の対応経過について、努力義務ではありますがどのように取り組んでこられたのかについてお尋ねをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 一般質問の途中ではございますがここで10分間休憩いたします。

午前11時07分 休憩

午前11時17分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

9番瀧本孝一君の一般質問に対する菊池教育長の答弁から始めます。菊池教育長。

なお、感染予防のため、教育長はマスク着用のまま答弁いたしますので御了承願います。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 学校図書館法の一部改正についてでございます。

改正までの経緯等につきましては、議員御案内のとおり経過をもちまして、第6条によって学校司書、これが努力義務として設置できるという規定は承知しております。このことによって、司書教諭に加え学校司書を置くことができるというふうな改正になってございます。

それに係る対応ですけれども、本市におきまして、この改正から7年が経過してございますが、その配置基準等もございまして、実際の配置基準は本市においてはございません。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 配置はされていないということでありました。

次に、学校司書教諭と学校司書の身分や仕事の内容の違いなどについてお尋ねをいたします。

学校司書は、法改正前から多くの学校に配置され、子どもや教師のニーズに応じてきたようですが、平成9年の学校図書館法改正で、12学級以上の学校には必ず置かなければならない司書教諭と、法的な身分の位置づけはないものの、図書の管理や貸出業務、図書館活用教育への協力・参画をはじめ、教師の読書指導や授業活動

を支援する職員として、仕事の内容はさほど違うものとは思われません。

勉強不足で甚だ失礼ではありますが、教諭の資格の有無や学校の規模の違いによるものなのか、いまひとつこの違いに理解が足りない状況でありますので、この際お尋ねをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 司書教諭と学校司書の役割等の違いということのお尋ねでございました。

まず、役割についてでございますが、司書教諭は、学校図書館の運営のほかに、教諭でございますので指導をつかさどります。学校司書は、専ら学校図書館の整備や案内などを担当することとされてございます。

また、資格につきましてですが、司書教諭は、主幹教諭、指導教諭、または教諭のうち司書教諭の講習を修了した者がその資格を有することになります。現在、本市におきましては17名の司書教諭が配置をされているということでございます。

学校司書につきましては、必要な資格や経験など一律の条件は示されておりません。国においてその方向性を示すとありますが、実際には地方自治体において資格要件等を定めるということでございます。

最後に、配置基準でございます。司書教諭は、議員御案内のとおり、12学級以上の学校には必ず配置ということにされてございまして、本市におきましては、この基準に基づき、遠野小学校遠、遠野北小学校、遠野中学校の3校に司書教諭を配置しておりますし、これに加えて、小学校6校、中学校1校に配置をしているところでございます。

学校司書の配置基準は、小学校は27学級以上、中学校は21学級以上の大規模校に対し、定数による公費措置とすることになってございます。

よって、本市においてはこの配置基準に該当する学校がございませんので、配置ができないというふうな現状でございます。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 次の質問に移ります。

地方教育行政法の改正に伴い、平成27年4月から、各都道府県市町村に総合教育会議という会議体を設置しなければならなくなりました。首長と教育委員会により構成され、地域における教育行政の指針となる大綱を策定する会議体と理解しますが、当市でも年2回ほど開催されているのではないかと考えています。

この遠野市総合教育会議の中で、児童生徒の豊かな人間性を培う読書活動に大きく影響すると思われる学校司書に関する議題や話題が取り上げられたり、各学校への配置について課題とされたようなことはこれまでにあったのか、またはなかったのかについてお尋ねをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 総合教育会議地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正によりまして、これが新しく定められました。平成27年度から本市においては総合教育会議を設置してございます。

この中で、学校司書についての話題があったかなかったかということでございます。先ほど答弁申し上げたとおり、本市の学校においては配置基準にかなう学校がございませんので、このことに関しては特段話題になったことはございません。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 配置基準に満たないため、話題になったことはないというお話でした。

次に、ゲームやスマホに長時間はまり、いわゆる依存性に陥っている子どもたちが年々増加している実態があると報道されており、私も同感であります。

様々な本に出会うことは、人生を豊かにしてくれると確信をするものですが、確かな学力の育成にもつながり、言語活動や探究的な学習の充実にも結びつくとともに、幼少期を含め、小

中学校時代に司書教諭や学校司書のサポートがあれば、なおのこと読書に対する興味が湧く子どもたちも増えるのではないのでしょうか。

遠野市の学校教育のトップをつかさどる教育長は、学校司書の役割をどのように認識され、その重要性についてどのように評価されているのか、また、学校司書を各学校へ配置されていないようですが、現状このままでいいものか、今後どのような方向性で対応していくのかについて見解をお尋ねいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 読書活動の重要性については、十分認識をしております。また、言葉で言えば、ICTはデジタル、そして読書はアナログと、このデジタルとアナログをどう融合させていくかというふうなことも申し上げたという記憶がございます。

学校司書、これを配置することによって、例えば司書教諭等の負担が減るなり、または、専らその学校図書館に勤務するわけですので、その図書の充実が図られるというふうなことは認識してございます。

ちなみに、岩手県内において、学校司書の配置状況でございますが、これは平成28年度の国の調査によるものですが、小学校では、全国平均が59.3%、本県は35%、中学校においては、全国平均が57.3%、県においては32%と、全国と比べて低い水準となっております。

一方で、遠野市立学校には、先ほど申し上げたとおり学校司書は配置してございませんが、司書教諭を市立学校14校中10校に配置しており、その配置割合は国・県と比較しても上回る数値でございます。

また、ほとんどの市立小学校には図書ボランティアによる読み聞かせ活動、または学校図書館の装飾や図書の整理などが行われているという実態もございます。

加えまして、市立図書館の移動図書館車による学校巡回、また、こども本の森遠野のオープンなど、児童生徒が本に親しむための遠野なら

では環境も充実しているものと捉えてございます。

読書活動を充実させることが一番大切なことですので、今後におきましても児童生徒の豊かな心を育むために、地域各施設と連携し、よりよい読書活動と学校図書館の環境整備に努めてまいります。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 私の質問はこれで終わりますが、多田市長にも菊池教育長のような答弁を願いたいところであります。

ロシアとウクライナが戦争状態となり、国際社会が緊張を強いられている状況にあり、今朝のテレビでは首都キエフへの大規模な攻撃も始まったと伝えていました。

一昨日から一般質問に立った多くの議員が、この事態に対しコメントを述べていますが、戦争は何の罪もない一般市民が犠牲となり、悲劇しか生みません。

戦争を経験し、世界では唯一の被爆国である日本から一刻も早い平和的な解決を望むとともに、ギャグや駄じゃれが好きな市長が昨日、副市長のことをいつも動いていなければ死んでしまうような例えで揶揄していましたが、ある意味一日中動いて働けというパワハラと受け取る人もいるかもしれません。

ギャグ、冗談、駄じゃれ、ジョーク、ウイット、人を笑わせる手法はいろいろありますが、自治体の首長として、おやじギャグや駄じゃれ、ジョークを否定するものではありませんが、時と場合や、議場などの場をわきまえ、駄じゃれなどではなく、ウイットに富んだ会話をもって市長が望む楽しく明るい市政に取り組んでいただきたいと思っております。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 質問者席消毒のため、暫時休憩いたします。

午前11時29分 休憩

午前11時30分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 多田勉でございます。質問に入る前に、例年申し上げておりますが、今年も税の申告が始まっております。貴重な市の財源確保、長期にわたる事務従事をされている関係職員の皆様にも御苦労さまですと申し上げておきたいと思っております。

それらの貴重な財源の積み重ねによって、遠野の未来開拓予算と位置づけて編成されました総額171億1,000万円の令和4年度予算が提案されました。就任4カ月余りを経過して、この間見たり聞いたりしたことが新年度予算に確実に反映されているものと期待をしながら、今定例会では大項目1点、市長の施政方針について、一問一答方式により質問をしております。

それでは、令和4年3月定例会冒頭に行われました市長の施政方針演述の中から、何点かについて市長の見解を伺ってまいります。

まず最初に、水道事業についてでございますが、先ほど市長の、前の議員の質問に対する健全財政の関係の答弁がありましたが、あれを聞くとなかなか質問しづらいこともありますけれども、思い切って私なりに質問をしております。

まず、水道事業でございますが、市長は、第2次遠野水道ビジョンに基づいて安全安心な水の安定供給を行うことができるよう水道施設の計画的整備と老朽施設の改修、更新を進めていくとしております。

参考までに申し上げますが、市内には、遠野町×田・九重沢地区、綾織町山口地区の一部、小友町外山地区、同じく小友町山谷地区の一部、それから、附馬牛町では荒川地区、中滝地区、沢の口地区、大洞地区、小出地区、そして、土淵町では西内地区、恩徳地区、米通地区、上郷町では来内地区、宮守町は宮守の一部、達曽部の一部と、この15の地区がいまだに未整備であります。

それら地区の対象世帯は248戸というふうに

把握をしておりますけれども、一向に整備が進まず、安全安心な水の安定供給というビジョンからは程遠く、置き去りのような状況を強いられているというふうに捉えざるを得ません。

特に、その中で小友町外山地区は、最近の周辺水環境の変化から、将来の水源保全に危機感を抱いております。現在も、今年は冷えが強かったこともありますけれども、水源の凍結によって水が利用できなくなっていることから、ほかの方から水を汲んで運んで生活を余儀なくされているという住民もいらっしゃるというふうに聞いております。

このような市民生活に影響を与えていることから、市の均衡ある生活環境を実現するために、現状を十分に把握・理解しながら未普及地区の整備を進めるべきと考えますが、市長の取組に対する見解をお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 水は、人が生きるための最も必要なものの一つだと理解しています。その地域に水が行かないから住むなということは絶対に言えないことだと私は思っています。2006年からの遠野市の総合計画をずっと見てきますと、議員おっしゃるとおり、常にそのことは書かれてあります。

なぜそこに取り組みなかったかということももう一度考えていかなければいけないと同時に、時代がどんどん未来に進んできたわけですから、何かの方法で、衛生で安全な水を確保する方法というのを探していかなければいけないと思います。

おそらく今の予算の中で、それらの地域に全て上水道を布設するという事は、恐らく今の遠野の力では難しい部分があると思います。

また、老朽化する中、経常収支が赤字に転落している中で、恐らく何十億円、これじゃ濟まないかもしれないですね。その予算をどうやって確保していくかということを見ると、その新たな方法を模索するというのもひとつ視野に入れながら水道は考えなければいけないこと

だと思います。

私も見に行ってきました。その水源とか止まるのも分かりました。あと衛生面も、やっぱりもう少し衛生的にする必要があると感じてきました。この辺も含めて水道に関してはしっかり考え直さなきゃいけない。この間も道路のことも言いましたが、ライフラインといいます人が生きる道なので、見直して計画を立てていかなければいけないと認識しています。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） まさに目がくらむような膨大な経費、予算が伴うというのは重々理解しておりますけれども、やはり、今、市長がおっしゃったように、人の生活はやはり平等でなければならぬ。私生活に格差がないように、それを支えるのも我々行政の役目だというふうに私は思っております。

ぜひ、そういったことを踏まえながら、過去には自家水道の施設整備に、市のほうで、上限50万円でしたか、補助をしながらその対応をしているというのも現実としてありますけれども、このことは恒久的にその施設が使えるというものじゃなくて、ある一定の期間が過ぎると、やはり設備の修繕なる更新が伴ってくると、そうすればまたその住民には負担が伴ってくる、そういうことになっています。

ですから、そういった現状を、市民が今どういう生活を強いられているかということをも十分に把握、理解しながら、宿題が積み重ならぬうちに極力対処するというのが私は肝要じゃないかなというふうに理解しております。

その自家水道、これも一つの環境によっては仕方がないことでありますけれども、今の現代住宅、私も、ボイラーもありますし、いろいろ、給湯器もあつたり、そういった環境整備の中で、できれば市の水道を使ってほしいということで、私は両方ありましたから、市の水道をそちらのほうにつなぎましたけれど、そういった生活する上で生活環境を整備する上でもいろんなそういった制約が生まれてきています。

そして一方、若い人たちの近代化的な生活を求めるそういった思考の中で、どうしてもこの地域の活性化が衰退する、停滞するというふうな要因にもなっておりますので、ぜひそういった環境づくりも若い人たちの定住化、それを我々も求めているわけですから、ぜひ、そういったことも考慮しながら考えていただきたい。

それで、今回の定例会に遠野市上下水道事業審議会条例の制定が提案されておりますが、先ほど来市長の答弁にもありましたとおり、老朽化が進み深刻な状況になっている施設の改修、更新は、市長の答弁に前のほうにありましたが、負の遺産、後世に大きな不安と莫大な財政負担、そういった課題を残すことになるのではというふうに私は危惧しておりますので、これら重要な課題を先送りすることなく、安定した事業を達成していくための経営基盤強化に対する具体策について市長の見解をお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これは先送りしないで、しっかり現状と、どういう計画にどういう予算が必要であるかということを確認にして取り組んでいくべきものと思っています。

これについては、技術的な部分では、これまでのようにやっていると莫大な費用がかかりますけれども、努力はかなりしています。老朽化している管、耐久性のある高い管、鋳鉄管とか塩化ビニール管とかございます。これらを、担当課は駆使して補修や維持に努めています。口径を減少させるとか、様々な方法を取っています。

さらに、その優先度を高めながら計画を立てていかなければいけないと思います。そのために審議会というのは必要だと、トータル的に必要だと思います。施工の計画、修繕の計画、同時に料金や費用の計画まで、細部にわたって検討して立てていかなければいけないと思いますので、その分を進めて、将来、何とか重荷にならない形で後世にバトンタッチしなければいけないというふうに思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 市長も現場を承知していらっしゃるようですから、これらの今後の計画の見直し、そういったものにぜひ反映していただくように期待をして、次の質問に移ります。

次の質問については、前の定例会でも一般質問いたしました河川の氾濫問題でございますが、市内河川管理に伴う市の果たすべき役割についてお伺いしてまいります。

先ほども申し上げましたが、前の定例会で質問いたしました。質問した中で、綾織町の砂子沢川について、河川氾濫の要因を解消するため課題と改善の必要性を求めましたが、管理者が県であるということで、現状の私からの情報提供、そういう受け止め方をされました。

市ではこのことに対して、県に対してどのようなその後対応したのか、そしてその結果がどうだったのかということをお伺いしたいんですが、施政方針では、市民の皆さんに自らの命は自ら守ると、そういう意識の下に自発的かつ適正な避難行動を取ることができるように防災情報の発信に努めることとしております。

このことは、この砂子沢川を中心とした市民のみならず、市内全域にわたっての全ての市民に言えることではありますが、それ以前に、明らかに河川氾濫の危険性があると判断され、その要因となる環境のリスクの解消は、行政が最大限対処しなければならない役割と責任であるというふうに認識しておりますが、市長の見解をお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 河川の氾濫、これは本当に昨今の雨量の増加、また、乱開発というのもございます。重要なことだと認識しています。

道路も含めてそうですけれども道路の水路、消火栓全てそうですが、このライフライン、または公共的な水路・河川については、予算についてその担当する県、管轄県に要求をしていくというようなことを続けているということです。

今回の川等についても担当課のほうでは一生懸命上げてお願いをしております。これについて回答があるところ、また、見送りになっているところとございます。

同時に、先日、国交省の担当所長のほうと私、お話しをさせていただきました。遠野の水路・河川が氾濫すると、これの原因というものの一つに高速道路もあります。そこから出てくるんですけれども、その下流域の整備がなされないためにあふれて、民家に流出したり、あとは道路に砂利が運ばれたり、様々な影響が出ています。

これらを調査してまとめますので、これについて対応をお願いしますというお話をさせていただきました。

高速道路の水を流すことをするのであれば、その以前に下流の整備をしなければいけないというのがルールで決まっているということです。

ですから、できる限りのことは検討させていただきますというお返事を頂いているので、現在、雪が解けてきて見やすくなってきておりますけれども、建設業協会さんのほうにも相談をしております。青年部含めて相談をして、これらの調査をしてレポートをつくり、上げていきたいとふうに考えています。それでどれだけのことができるかどうかというのは一概にお約束できないけれども、努力をするというお返事は頂いています。

県の河川の直工というのは、今すぐは難しいところであります。なぜならば、市の河川でも氾濫する河川もありますし、それらの河川、道路の順番というものがあります。いずれにしてもこの範囲は年々広がっていきますので、この辺の注意とお願い、計画見直しというのは必要だと認識しています。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 分かりました。様々管轄する行政があるわけですが、物理的に考えると、どなたが管理主体であっても、この砂子沢川については、上流の方は以前に取っ

りようです、堆積土を。ところが下流の方は堆積したままの状態なので、河床と堤防の高さがどんどん狭くなっていくとか、そのような状況。普通であれば、先ほど市長が話したように、下のほうから、下を広くして、どんどん上に行って水処理できるような、私も物理的に考えればそういうふうには考えるんですが、あそこの川についてはそういう手法なのか工法なのかはちょっと分かりませんが、そういうことをやっている経緯があります。

ですから、十分その辺も県のほうに伝えながら早急に対処しなければ、その氾濫する先が見えるというふうな資金がどんどん年々大きくなって。その辺も含めて、少し市長には強い姿勢でこのことに臨んでいただきたいというふうに思います。

それから、次に移ります。宮守保育園の整備計画についてであります。

今般の市長の施政方針演述では、この宮守保育園の改築は示されておられません。何で私がここでこの質問をするかと申しますと、この宮守保育園、昭和55年に建設され、既に42年が経過しております。この42年が経過したことによって、老朽化に伴って雨漏り、そういった課題が多く今日に見えてきていると、そういったことから、利用している父兄の皆さんからも問題とする声が聞こえてまいりました。

今回の市長の施政方針演述の中に、宮守保育園の整備計画が、先ほど申し上げましたように見えていません。子育てするなら遠野としているからには、そういった環境の早めの対応が遠野の姿としてふさわしいものであると私は考えますが、宮守保育園の整備計画に対する市長の見解を求めてまいります。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） この施設は、議員御指摘のとおり40年以上経過した、老朽化した施設になっております。先日、私も現地に視察に行ってきました。やはり改修が必要という思いはあります。改修ではなくて、さらに進んだ方法

かなという部分もあります。これについては、第2次遠野市総合計画後期基本計画の中で位置づけており、保育協会と連携して計画的な施設整備を進めるということにしております。

つきましては、宮守全体の、宮守の中心市街地、宮守をどういうふうにこれから面的に考えていくか、そのことも含めて、今、宮守総合支所と話をしているんですけども、一度意見交換をして絵を描いたほうがいいんじゃないかと、将来像というものをさらにもう一度面的につくった方がいいんじゃないかと、それを見直すことは決めていると、宮守保育園に関してはですね。

だから、それがそこでいいのか、もしくは違う場所なのか、含めて面的にもっと宮守の絵を皆さんが意識して進めてもいいんじゃないかというような話をしています。

様々、面的な部分に関しては、ワークショップをすとかいう形で宮守総合支所が中心になって今計画を立てています。宮守総合支所を、さらに宮守の地域づくりの中心的な、サポートする、あるバックアップ施設として使っていく、活用していくということも併せて計画しております。

いずれにしても、この保育園の整備に関しては進めますので、施政方針演述ではありませんけれども、そういう意味で計画的にやっていきたいと思えます。

○議長（浅沼幸雄君） 午後1時まで休憩いたします。

午前11時56分 休憩

午後1時00分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 午前中の市長の答弁、頂きましたけれども、考え方としては宮守中心市街地の活性化と、それとの整合性というか連動性というか、そういったのも考慮して考えると

というようなことだろうと私は思いますが、ただ、一つ考えていただきたいのは、中心市街地の活性化と子育て環境の、いわゆる宮守保育園の整備の現在置かれている状況を考えれば、それとはもちろん目的も違うわけですから、しっかりとその辺の線引きをして、私は対応すべきじゃないかというふうに考えますし、しっかりとそれを宮守保育園の保護者に対しても、できればここで市長の考えをお示ししていただきたいというのが私の願いであります。その辺は市長、いかがでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 先ほど申し上げたとおりにこの計画は進めます。そして中心市街地とは関係ないです。つまり、その遊び場とかそういったものも必要だよという話がある中で、中心市街地というのは駅とか中心に考えていくわけですけども、例えば銀河の森とか、例えば市営住宅のそばとか、いろんな考え方はありますので、もっと使いやすい場所も含めて、ほかの周辺施設とのうまい使い方も含めて、どうせ建て替えるのであれば、そこでなくても同じことであろうということをお話しして、広い目で考えていったらどうかというお話でした。

ですから、今のところ何通りかの案があるようです。そのところは尊重しながらも、時間があるからそれも一つ視野に入れて考えていただいてもいいですよという話をしたところです。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） ぜひ子育てに伴う明るい環境づくりを推し進めていただきたいというふうに思います。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

馬事振興について質問してまいります。

施政方針演述の中では、馬を活用した地域活性化を述べておりますけれども、JRAの馬事振興を参考にしますと、日本の在来種の保存・伝統、馬事芸能の保存、国内産乗用馬の生産振興などの取組を通じて、日本の馬事文化発展に

貢献しているというふうには、JRAのほうではそういうふうで紹介をされていますけれども、しかし、遠野市の現状は、馬を活用した様々なイベントなどは定着をしておりますけれども、管理飼養を日々行っている管理者あるいは農用場の農家の皆さんは、飼養頭数を含め伸び悩みの傾向にあるというふうには承知をしております。

しっかりとこの馬事振興が、いわゆるその馬生産者の農家の経営の一部として位置づけがされ、魅力のある馬事振興の確立を支援すべきというふうには思いますが、できれば、その遠野産馬の生産と育成、それを奨励するとしておりますので、それがいわゆる、その農家の収入源の一部として経営に反映されるべき生産振興の支援が、どうもこの今回の施政方針演述の中では具体策が見えてまいりません。その辺について、市長の見解を伺いたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 馬事振興については、これまでに5年間で2億5,000万円補助を行っているという状態です。私はこれを絶対に経営改善しなければいけないと考えていて、早々に経営分析を始めました。

その中で各事業があります。各事業がどういう収支であるかってことを求めて分析をしました。その結果、なかなか事業別収支が出てこない。事業別収支が計画的になされていないのが現実的のところなんです。以前から改善があるとすれば、そういう分析の仕方っていうのは、もう既に始まっていなければおかしいわけです。

それから、馬の関係者の方々と、もう二度三度と座談会を開いています。どうすればよくなるか。意見が結構出てきます。高齢化しているということもありますね、育成者が高齢化しているということもありますし、現在、施設が赤字になっている部分に関しては、その競りとか、その市場に出すときのこと、例えば1歳馬で売れなかったときに2歳馬をどうするかと。そこでまた市の負担。

要するに公社の負担が膨らんでいくとかです

ね。これを1歳馬にしましょうと。2頭売れた場合、1頭がいい値段で売れて、2頭、じゃあこれ、2歳馬に持っていかないで、1頭、1歳で売っていきましょうとかですね。その生産者の方から、いろんなこの改善策を提案していただけていました。

そして、なおかつ競馬会であるとか乗用馬に関してはどうなのかと。営業の仕方はどうなのかと。この分析も実際のところはよくなされていませんでした。組織改善とともに、その考え方の改善、そして働く人のモチベーションを上げるっていうことが大事だと私感じています。

この前も馬の関係者の方といろいろ話していたら、イベントは定着して、いろいろできるんですけども、馬がいないと。ホースパーク事業をしていく上で、馬を借りなければいけない実態があると。この辺もやはり改善していくべきだろうと。これにはお金がかかるでしょうけれども、じゃあ遠野の馬の里は何を中心にやっていくかっていうことを、全部が赤字だけでは済まないですよ。施設も変えていかなきゃいけない。

じゃあどこに、今から注力する。その次にどうするっていう計画的な考え方が必要です。だから、もしかすると時にはお金がかかるかもしれないです。それでもやるかやらないかというところまでいってしまうわけですよ、このままいくと。毎年5,300万円もお金をつぎ込むとか、そういうことをずっとしてきているわけですよ。

私はこれをどうしても改善しなければいけないと考えているので、馬の関係者の方と、例えば馬の里、畜産公社の中で、何が何でも一緒に改善しますよという宣言をしてやっております。

その結果、長年出せなかった打開策、この辺を何らかの糸口を出していくというところに、まずなろうかと思えます。いきなりはいくわけがないと思えますよ。ただ人的な体制、これらもしっかり、もっともっと外から声をかけられる、声が反映させられる体制にしていかなければいけないとして取り組んでおります。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 幸い遠野市内には、先ほど市長が話ししたように、遠野の馬文化の歴史ってというのは、私が生まれる前から遠野の馬産地としての歴史を積み重ねてきたわけですから。

まあ、そういった意味からすると、今現在遠野市内には多くのマンパワーが存在しております。そういった方々の、いわゆる知識、経験を次の経営者に継承できるような、そういう体系づくりも私は必要じゃないかなというふうに思います。

現在の話を聞きますと、生産者の約9割が60歳以上だというふうな話も聞いておりますので、そういったことからすると、将来の馬産地としての遠野、馬事振興を担う遠野市として、やはり馬、使用する農家の方々の育成も、私はそれが一番の要じゃないかなというふうに、馬事振興の要だというふうに私は理解しておりますので、ぜひ馬の里もありますけれども、そういった農家の日々の、これは牛、和牛にしるホルスタインにしても、それと同じ考え方で、やっぱり馬事振興も取り組んでいただきたいなというふうに思いますので、その経営が持続できるような、そういう体制づくりを私は求めていきたいというふうに思います。

それでは、最後になりますけれども、林業振興についてお伺いをいたします。

林業振興については、まさに市長が施政方針演述で述べておるとおりでございますけれども、その市長が述べている施政方針のとおりに成果が上がり、理想とする遠野型林業が実現することを私は期待をしております。

前市長の際には、林業大学の誘致という話もありました。私も大分期待が膨らんだということもありましたけれども、その後、岩手県の林業アカデミーがその役割を現在果たしているということで、それ以上の林業大学校についての進展はございませんでした。

岩手県は先般の新聞、市場を見ますと、県内の人工林の多くが伐採期を迎えていることから、

県を挙げて県産木材の利用促進策を進め、森林資源の好循環につなげるとして、県産木材利用推進本部を設置いたしました。県内の人工林の約半分が植林から50年を超え、利用期を迎えていると。

また、来年は岩手県で全国植樹祭の開催も控えている。このことから、豊かな森林資源を発信する好機だと、いい機会だというふうに岩手県は捉えています。遠野市も全く同じ現状にあります。担い手の育成・確保が大きな課題であります。このことが林業振興上、深刻な問題として私は捉えております。

このことへの対策が急務であることから、今回の県の政策、動向を受け、遠野市が核となって林業に関する学習拠点の誘致を図って、全国からその希望者を受け入れるなどすることによって、市内への波及効果が大きいと期待されるというふうに、他県のほうでも高等学校の学科の中にも林業課を設置・誘致したり、もちろん県で取り組んでいる部分もいろいろあるんですが、そういった遠野市がそれに組み込むことによっての波及効果というものを大分期待をされると。真の林業振興の実現可能な道を構築すべきと私は考えるんですが、市長の豊かな識見を活かした、本気度の感じられるような答を期待してお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ずっと本気で答えているんですよ。本当に山ってというのは、森ってというのは命を育むといいます。水、山から水が出てきて、そしておいしい野菜、お米を作るために、その水がその生命の源となっていくという関係があります。

よくカッパおじさんの運萬さんが、こういうことを皆さんに話してくれます。本当にそのとおりだなと思いながら聞くんですけど。そういう話ってというのは、やっぱり都会にいる人にも若い人にも、その源として伝えていくってことが、まず必要だろうなど。それによって水っていうものが、森っていうものが考えられる。

そこからどういうふうにして、その豊富な資源を様々なビジネスとか社会の中で役立てていくかっていうことが重要だと思います。そこがやっぱり、勉強とかいうことになると思うんですね。伝えていくとかっていうことになると思います。

まず、これからの遠野の山、森を考えると、経営していかなければいけないなという思いがあります。そのためには、ただ切ればいっていいものでもない。ただ植えればいっていいものでもないで、そうするとそれを計画的にどのぐらいのヘクタールがあって、どのぐらいやっていって、そのサイクルを回せば持続的に使えるのかっていうビジョンを持っていかなければいけない。どういうものに使っていくかってことも考えなければいけないですね。

一つは、バイオマスとかバイオ発電とかいろんなことがあります。もう一つは、遠野産材を使って、一連の例えば工業団地、木工団地内にある事業者が協力して遠野の家を造っていくとか、様々なブランドにつながるものもあると思います。その辺を計画的にやっていくということで、3月の議会が終わった早々に、その森林経営ビジョンに関して向かっていくための座談会をやる予定にしています。

何回かいろんなことで、いろんなところで、話をしたり聞いたりしなければいけないなと思っています。話をしたいですね、皆さん、やっている人たちは。自分たちのビジョンを伝えようとしてくれるわけです。でも、やっている人たち、いろんな立場の人たちで、それが違ったりするわけです。それを共通理解しながら一緒にビジョンをつくっていかないといけないというところにあると思います。

今やらないと、どんどん無秩序な広がり方をします。というのは遠野だけの話じゃないです。市外から遠野の木材を買いに来ている、そういう部分もあります。さらには、今、ウッドショック、コロナの影響でウッドショックがありました。ウッドショックがあった上に、これからウクライナがこういう状態であって、ロシアと

ウクライナが中国がどうなるかっていうことによって、さらにそれが進む可能性もあるし。ウッドショックっていうのは非常に大事になっていきます。その辺まで含めた長期的な考え方が必要だと思います。

取り急ぎ起業塾、林業版の起業塾っていうところは、その座談会の先に広く求めてやっていくと。林業でどういうふう設計を立てられるか、事業ができるかっていうところを見えるようにしていくということをしていきたいと思います。

その中で、林業関係者も言っているように、その教育っていう部分でも森、使えますよ。そうだなと考えさせられました。教育も使える、観光も使える、医療も使えますよね。精神的な安定とか様々なところで使える。ということは森っていうのは木を使うということだけじゃなくて、社会の中で必要な役割なんだってことを改めて認識する。そしてビジョンを再構築していくってことが必要だと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 今、市長の答弁の中に起業塾という言葉が出てまいりましたけれども、もう一回考えをお聞きしたいんですが、いわゆる、今、全国的にそうですけれども、遠野市の喫緊の課題は、山はある、ただ手入れもしたい、ただその担い手がいない、足りない、不足。そういう状況に対して、どのように取り組んでいくかというのが、私は今の質問のポイントだと思っています。

それで、いわゆる、例えば高校への、県に対しての要望なり、あるいは市独自でもいいでしょうけれども、全国のそういった方々の、募りながら遠野市に呼ぶと。そして遠野で学んでもらって、日本の森、あるいは遠野の森を育ててもらおうと。そういう担い手がいないのが今の現状です。助成制度も補助事業もいっぱいありますけれども、それを100%活かせるという環境にはない。そういうことに対しての市長の考えを伺いたい。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 起業塾ってというのは起業していくということだけじゃなくて、そこに従事していく人を育てるために、例えば東京からこういう環境で生活したい。じゃあそうやって何でどういうふうに住生活するかというところを、生活の過程を見えるようにしてあげる。そして林業に従事していく人を増やしていくという意味での起業塾です。

ですから、学校を造るっていうのは、これ、時間もかかることです。まずスタートは身近なところで始めなければいけないんじゃないですか。その形で起業塾やその育成がうまくいかなければ、学校には到底到達できないと思います。

いずれにしても、農業にしても林業にしても、担い手っていうことは重要なところです。そこに参加していただく人を増やすっていうことのための取組を始めるという意味でございますので、御理解いただければと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） ぜひ遠野だけの起業塾じゃなくて、この遠野が取り組む起業塾を、ぜひ全国に発信して、そして遠野の林業盛り上げてもらおうと。そういうふうに頑張っていたきたいというふうに思います。

時間も終わりますけれども、本来は、私はここで終わりたいんですが、実は昨日、1日は草木萌え動く。ちょうど今の時期を木の芽どきと言うらしいんですが、木の葉も一斉に芽を出して、そして春を告げるということなようであります。

ようやく春到来にも気分が晴れ渡らないと、戦火が消えぬせいかと。ウクライナの3月には真冬日の寒さもあると聞きます。春浅し。いや、春遠き人々を思い浮かべるといのは、私のみならず世界の皆さんがそう思っているだろうというふうに思います。一日も早い平和を取り戻していただくように心から念じて私の質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 質問者席消毒のため暫

時休憩いたします。

午後1時25分 休憩

午後1時26分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 最終13番目の質問者、佐々木大三郎でございます。お疲れのことと思いますが、市長に対して一問一答方式により大項目3点について伺います。

質問内容の一部は、これまでの同僚議員の質問と重複しますので、簡潔な御答弁で結構ですが、市民に分かりやすい質疑応答にしていきたいと思いますので、御理解のほどよろしくお願ひします。

それでは大項目1点目の質問。市政刷新の在り方について伺います。

市長は先の市長選挙において、市政刷新を目指して市民の命と暮らしを守るということを合言葉に、財政健全化による産業振興や福祉充実ということを公約に掲げておられました。早いもので市長就任から既に5カ月目に入っています。この間、遠野市政の現状について、市職員からの聞き取りや、自ら現地の確認、各種団体の皆さんとの意見交換、さらには市民との懇談会開催などにより御確認できたことと思います。

そこで伺います。まず市長就任の際、前本都市長から市政運営について引継ぎのようなものがあつたでしょうか。詳しい内容までは求めませんので、差し支えない範囲内でお答えください。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まず、市長になって大三郎議員と議場で議論をすることを楽しみにしておりましたので、ようやく議論ができるということに、まず喜びを感じております。そして御質問にお答えをいたします。

本都市長からということではなくて、全政策

について担当部長から引継ぎを、そして事業の説明を受けております。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） もちろん事務規定か何かに基づいて、事務担当からの引継ぎはあって当然だと思いますよ。私の質問は、前市長からは引継ぎのようなものはありましたかという御質問でした。もう一度答弁してください。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 前市長から相対して、そういう形での引継ぎはありません。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 前市長からは何もなかったということであります。私事で恐縮ですが、私は民間会社で40年間勤めまして、この間15回転職しております。係長に就任して以降は自分で引継書を作成して、後任の方に引継ぎをしております。これは何も私一人のことではなくて、全社的にごく当たり前にそのようにしております。何でそんなことをするのか。一言で言えば、お客様第一、上司は二の次。そういう気持ちからですよ。

その心は何かといいますと、やっぱり企業であるからには、お客様サービスを向上させなくちゃいけない。そのことにお客様から信頼を勝ち取って、長い間自分の企業を御利用いただく。そのことが企業の発展につながるからであります。このことは市政にとっても同じことを私は言えると思います。

したがって、市政の健全な発展を願うのであれば、今までやってきたことに対して、これは何としても新市長はやってほしいとか、あるいは、これはやっぱりまずかったから改善を加えながらやってほしいとか、この際これはやめてもいいよとか、そのような引継ぎがあってしかるべきじゃないかなと私は感じます。市民の皆さんはどのように感じておられるでしょうか。私は寂しい思いがいたします。

次の質問ですが、市長に就任されて多くの方々と対話を重ねられ、行財政の現状と課題についてほぼ把握できたことと思います。そこで、改めて市政刷新の必要性について、どのように考えておられるのか伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） その必要性が具体的にになってきたというふうに考えています。刷新の必要性がより具体的にになってきたということです。まず財政の仕組み、その構成となる様々なライフラインの計画、福祉の計画。提供すべき、それこそ、今、おっしゃったように市民サービスの内容。これらをどういうふうに予算化して整えていくかということが、まず必要なんです。何をするか、具体的についているところの施策に基づいて、それが全て履行されていたか。この事業が必要であったか、この事業が必要でないか。これらの検証もあまりされていない。

それと、どうやって具体的に進めていくか、市民と語り合いながら農業を振興していく、町をつくっていく、災害から町を守る。様々なことがあります。その方法論というところをさらに踏み込む必要があると思っています。それらの点で、まず感じております。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 実は私も市長と同じような思いがしました。それはあまりにも解決されないままの課題が山積しているからであります。これらの課題を解決するには、やっぱり行財政の現状に大胆にメスを入れていただいて、検証を加えながら刷新を図るべきと考えます。

そこで、私が認識している当市の主な課題について御紹介をさせていただきます。

1つには、少子高齢化と人口減少が急速に進み、閉塞感が漂っております。2つ目は、財政状況は年々悪化傾向を示しております。3つ目は、総合交通対策の不備から交通弱者は買物や通院・通学に難儀を来しております。4つ目は、

当市の基幹産業は一次産業であると強調しておりますが、予算は毎年減額され、高齢化や担い手不足、農業生産額の減少に歯止めがかからない状況にあります。5つ目は、市民が望んでいる行政サービスに十分に予算が回ってこない。反面、建物整備には多額の予算を投入する建物行政が今もって続いております。これ以外にも様々な課題が存在しますが、これらの中で最優先で解決しなければならないのは人口減少問題であると私は認識しております。

そこで大項目2点目の質問。人口減少対策について伺います。

当市は人口減少に歯止めがかからない状態が続いております。この人口減少による影響は長期的かつ多岐にわたっておりますので、その一例を御紹介させていただきます。

まず一つには、産業と雇用への影響であります。これは生産年齢の人口減少により労働力不足を招き、雇用の量と質の低下が懸念されます。また、農林業の担い手不足により、耕作放棄地の増加や環境維持が困難になります。

2つ目は、地域生活への影響であります。当市が、今、力を入れている小さな拠点による地域づくりや、行政区の担い手不足によりコミュニティの低下が懸念されます。このコミュニティの低下は、地域の防犯力や防災力の低下を招きます。また児童生徒の減少により、地域の核施設である学校の存続や、しし踊りなど郷土芸能の活動も危うくなっております。

3点目としましては、行政サービスの影響です。税収など歳入の減少が見込まれる一方で、高齢化はさらに進むことから、社会保障関連経費などが増加し、財政の硬直化が進行し、行政サービスの低下を招いてしまいます。

以上から、当市の現状、人口減少対策に本腰を入れて真剣に取り組まなければならないと思います。市長の御所見を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 議員おっしゃるとおり、本腰を入れて取り組まなければいけないことで

す。なぜ人口減少が起こるかということは、暮らしにくい、生活しにくい。だから起きていくと思います。喫緊にそれぞれの介護の問題、子育ての問題という問題もあります。総合的にそういうことだと思います。

そのためには要素として衣食住、それと安らぐ心、そして「業」、こういうことがあります。これらの全てのバランスが取れていかなければ最終的には住みやすい町にはならない。

そして、なおかつ行政サービス、ライフラインを含めたものがしっかりしていなければいけないということが一つの大きな最終的な目標です。その中で仕事はどうする。仕事の選択肢を増やす。仕事のミスマッチが起きる。仕事を欲しい人はいるけど欲しい仕事がないということもあります。そのために誘致する産業もそうですが、業種を増やさなければいけない。そのために何が必要かってことを考えていかなければいけない。

もう一つは教育です。全て記憶して、それをテストでやる教育だけじゃなくて、人間力を上げていく教育、これが私はグローバル教育っていうんだと思いますが、このグローバル教育っていうのを、じゃあどういうふうにするのかと。高校魅力化っていう事業の取組がありますけれど、これは遠野市もやってきました。私はそれでは足りないと思っています。遠野市がさらに独自に人間力をアップするための取組を進めなければいけない。これが今までは未来づくりカレッジとか、そういう形でやってきたんですけども、それではもう今のステージは違うというのが私の考えです。

また、例えば出産、出産育児、これらも重要です。若い世代が遠野市で安心して暮らすためには、出産から育児、妊娠するところからいくわけですけども、そのときに、出産に行くために、安心して行けるように、公約でも申し上げましたとおり、産前、出産する施設の近くのところ泊まれるようにするとか、交通の安全を確保するとかっていうことは、もう既に予算化させていただきました。これらのこともそう

ですし、産後ケアの部分も必要です。これらがしっかりと育っていかなければ、出産、安心してできるっていうことにはなりません。

それから保育、保育の環境も変えなければいけません。働く人の環境の改善、これはもう国のほうでも言っています。さらにその先、介護の問題もあります。働く人が働けない。介護以外で働く人もそうですけれども、介護で働く人、介護現場で働く人も大変な状況になる。その辺のケアを深くしていかなければいけないと。それらがトータル的になっていったときに、本当に住みやすい町になるんですが、今申し上げたとおりパーツパーツ、部分部分もそれぞれ一生懸命取り組んでいかなければいけない。

誘致企業に関しても、データ系の企業を誘致する、半導体系の企業を誘致する。そうでなければ、さらに合弁会社化していく。これから、例えば誘致企業が大きくなったときに、今までの従来の遠野市内の事業者がやっていけるだろうか。人の競争もしなければいけないし、様々な競争をして、人を取るか取られるか。こういうことになる可能性もあるわけです。

その点で業種を、今の業種に絞るだけじゃなくて、転換していくっていうことも一つ重要なことなので、どういうふうに転換できるか。例えば半導体系にどういうふうに転換できるか。これらのところを、私は今度、産業別の座談会の中で提案していきたいというふうに思っています。これら一つ一つのことについて具体的に組み込んで、アクションを起こしていくということが大事だと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 市長がただいまおっしゃったとおり、この人口減少対策には様々な要因が複雑に絡んでくるんだらうなというふうに思います。その中で、容易に取り組めるのは移住定住策について、これが一番手取り早いと思いますので、この策について伺ってまいります。

まず一つには、若年層、10代から20代全般の

方ですが、この地元定着を評価しなければならないというふうに思います。これは小中高校生たちに、自分たちが生まれ育った遠野市に、もっと関心と愛着、魅力を抱いて地元高校への進学と地元企業への就職者を増やすようにすべきであります。

ちなみに中卒生徒の地元高校への入学比率は約40%程度にとどまっております。また高卒の就職希望者のうち地元企業への就職比率は約44%にとどまっております。具体には、昨年春の高卒就職希望者58人のうち市内企業への就職は半数以下の26人ということでした。

この現状を改善するには、行政と家庭、学校、そして企業が連携して、遠野で暮らすことの素晴らしさを理解してもらえるような取組が必要じゃないでしょうか。特に市長は自ら学校への出前事業などによって、市政への将来展望を示しながら、共に夢と希望を叶える遠野市を築いていこうという強い思いを伝えることが効果的だと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） そう思います。私は緑峰高校、遠野高校に出前授業をさせてくれないかと、私が授業をしたいですという申入れを、今、しております。例えば一番最初にしたのは緑峰高校にさせていただきました。18歳から成人、大人になっていくというような時代になってきます。実業高校というのは、即実践できるような高校、こういう意味です。ですから、さらに市場に近い形での事業や考え方が必要だと思います。

例えば、緑峰高校から農業ファッション、ブランドを出そう。それは東京でも若い人、それとおじいちゃんおばあちゃんも可愛く町で着こなせるようなファッションブランドがあったらいいなとかですね。じゃあインターネット事業、あるんだからインターネットでショッピングサイトをつくって、遠野の物を売っていきましょうと。そのときにどうやったら売れるかと。

例えば、これはインターネットで売っていく

場合は、背景が必要です。ストーリーです。その物にある価値。なぜそれができるか、どういう人がつくっているかと。そういうストーリーが、今、重要なソースなんですね。そういうものをつくっていくテクニック。

今度は売る。今、ポップ和紙とか様々、その農業高校にあるすばらしい技術と成果っていうものがありますので、これを表に出していく。それをやるときに会社にしたっていいじゃないかと思うんですね。会社っていうのはどういうふうに運営するのかということを、その中でやってもいい。そういう様々な取組ができるんだよと。それを市が後押ししていくんだと。

例えば、農業もいろんな農業のスタイルがあります。今はお米は農協さんに送るのが多い。であれば違う販路はどういうものがあればよくて、付加価値がついていくかとか、いろんな市場の探り方をしていかなければいけないですよ、選択肢をつくっていかなければいけない。そういうマーケティングリサーチも含めてやっていくということが重要だと思います。

そのためには校内だけの授業では足りないだろうなというふうに思っています。さらに遠野高校、緑峰高校、分けて考える教育も、もう既に時代遅れかなと。じゃあ、いろんなところで集まれる、意見交換して一緒に協働できるっていうようなシステムも必要だなと。

そうすると、今までの高校魅力化の取組っていうものは、もちろん大事な新しい遠野物語を創るとかありますけれども、もうちょっとそこからワンステップ上がったところでやる必要があると私は考えていますので、これ、今年度から取り組んでいきたいと思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 市長はスポーツはじめ多彩な経験と才能の持ち主であります。またこれまでのキャリアを通して国内外に多くの人脈をお持ちであると私は承知しております。ぜひ、今、御答弁いただきましたけれども、この出前授業を実現していただきたいというふう

に思います。

今度は逆に、市外からの転入者を増やす施策についてお話しさせていただきます。

最近、総務省から公表された2021年の人口移動報告によりますと、東京23区は初めて人口流出を示す転出超過に陥ったということです。ちなみに東京都から他都道府県への転出者は約41万5,000人に上るということでした。この要因は新型コロナウイルスの影響と、場所を問わず働けるテレワークの普及が考えられるということでした。よその自治体では既にリモートオフィスやテレワークの誘致活動に積極的に取り組んでいるようであります。

この件について前市長にも提言してまいりましたが、一向に動いている気配を感じませんでしたので、改めて提案させていただきます。既に御案内のとおり、当市は遠野未来づくりカレッジ内に多額の予算を投入して、高度情報通信システムを構築しております。御案内のとおりであります。しかし活用は不十分なままです。

そこで、このシステムを誘致活動に生かすべきというふうに考えます。市長のお考え伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 遠野未来づくりカレッジの活用方法については、今、議論を進めているところであります。それと同時に実際の動きも始まっております。

といいますのは、市内にある活動団体もしくは市外の企業、ソーシャルビジネスするところでもいいです。ベンチャー企業でもいいです。教室を一つずつ貸すと。その中で様々なプロデュースをする。ベンチャーのレンタルオフィス、ワーケーションオフィス、今の活動のための拠点、様々な活動で利用できるような体制にしようということで、もう進めております。

また、遠野は光ファイバーケーブルが、まずほぼ行きました。これは非常に強い武器になります。最も2030年にはまたさらにその上になっていくわけですが、これを活用するというこ

を考えると、この未来づくりカレッジに行かなくても、どこでも仕事ができるっていうのがこれの強みでございます。どこに行かなければいけないという形は、もうこれからどんどんなくなっていくということです。

遠野の環境っていうものを売りながら、そのベンチャーだったり、遠野のその風土で、自分の人生と価値を仕事と両立させながらやっていきたいという人が増えていきますので、そういう人たちのための拠点という形のつくり方は、もう既に使えるんですよ。要は発信していくかどうか、実践するかどうか、そういうところにあると思います。これを進めていきたいし、もう進め出しているというところです。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 最近の企業動向は、社員の居住地制限を撤廃して、地方に住みながら遠隔で本社業務が可能になるような制度を導入する企業が増えているようであります。ぜひこのようなことに取り残されないように、前向きに取り組んでいただきたいと思います。

関連質問ですが、中学校の統廃合によって使われなくなった校舎の活用について伺います。

中学校統廃合時には、学校ごとにすばらしい跡利用計画を示していただき、地域は大きな期待を寄せておりました。しかしどうでしょう。残念ながら学校施設は今もって活用されないまま無残な姿で捨て置かれ、地域疲弊の大きな要因になっております。

そこで提案ですが、誘致したりリモートオフィスやテレワークの拠点として、校舎を活用するような提案活動、これが大切だと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 誘致するところっていうのは目的を持ってくるので、その目的に合致すれば、それはもう可能だというふうに思います。私が中学校を活用する上で、今、考えていることは、地域に産業、地域に小産業を起こし

たいってことです。

例えばハムを作るとか、例えばですね。いろんな加工品を作る。各産直もあります。ですけど、その加工場っていう基準がすごく厳しくなってきた、じゃあ80歳の方に加工場を造れって言ったら、それ、投資できますか。こういう話にもなってきます。

そうすると、地域のそういう加工品も六次産業ですね、これ、集団、グループでやらなければいけない状況になる可能性というよりも、そういうふうになっていきます。

そのときに、じゃあ何をやるかっていうことが、生まれたときにどこでやるかっていうことになるので、先に何をやるかっていうことを私はつくりたいなと、そういう動きをしたいと。

そうすると当然、その活動場所や利用場所として中学校というのは非常にいい建物なので出てくる。特にロースハム、足の骨があって、鹿なんかでもつくれるんですけど、今、鹿は食べられないですけどね、鹿のハムも作れます。実験して作ってみました。これは結構いけます。

こういうものをやるには、その中学校の教室跡、これは理想的なんですね。そういうものを例に取ってみてもやれることはあるので、やることを起こしていきたいというふうに思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 確かに市長はおっしゃるとおり、既に秋田県内なんかではハム工場として活用しているところもありますので、いずれいろんな活用策があると思いますので、間口を広げて取り組んでいただきたいと思います。

もう一点関連提案ですが、首都圏などからの移住者の住まいとして、空き家の活用について提案させていただきます。

市内の空き家は人口減少とともに年々急増しております。直近の調査では約930棟に達しているということです。この空き家の解消策として、市は既に空き家バンクへの登録を推奨する

など積極的な働きかけをしていただいております。

また、ホームページの充実や、関係団体と連携した対応により成果を上げていただいております。この成果をさらに高めるための提案ですが、空き家バンクへの登録件数をもっと増やす必要があると思います。

ちなみに現在の空き家登録件数はわずか22件にとどまっております。もちろんこれは所有者の事情によって登録困難なことも理解できますが、900棟以上ある空き家に対してわずか22件の登録件数は少な過ぎると思います。加えてスピード感をもって丁寧な御対応も必要であると思いますが、市長の所見を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） そのとおりだと思います。まず空き家バンクに登録していただくということは重要です。そのために貸せる状態にしていただく。例えば、できるだけ早めに空き家になった場合という相談を、家族でしていただくということが必要です。

それと、地域とのつながりっていうのは非常に重要になってくると思うんですけども、こうして貸せるということをしっかり発信していく。発信すると、結構空き家は借りられるようです。それがもっと多ければ選択肢が増えていくので、そのほうがいいと思います。

同時に空き家に入ってくるっていうことは、遠野で仕事をするとか、遠野に移住するということになりますので、その移住しやすい環境の一つに仕事、これ、私としては農業とか様々そういうことを、元々地元であったことをしていただきたいというふうに思っているんで、これを起業塾等で、先ほども申し上げましたけれども、それで生活ができるとか、そういう形の促し方をする必要があるというふうに思っています。

それと、UターンIターンいろいろありますが、そのグローバル教育っていうものを進めるっていうのは一つ重要です。グローバル教育っ

ていうのは単に外国語を話せるとかっていうものじゃないです。外国人と最近、夜、グローバル教育について外国のグローバル教育っていうのはどういうことなんだっていう、私、ちょっと議論したりしています。

そうすると、まず自分の地域のプライドを持つと。子どもたちに自分の地域に対するプライドを持たせる。じゃあそれが、プライドっていうのはいろいろあるけど何だと。これをはっきり言えるようにして、それをどうやって人に伝えようかっていう、そういう動きをしているそうです。

そうすると、自分の地域のいいところはこうだ。発表する、宣伝する力が出てくる。そうすると、自分のいい地域のよさも、また認識していくと。そうすると帰ってきたくなくなったりもする。

やっぱり、外国も帰ってこないというのは問題だそうですね。そこで、自分の地域のプライドと発信、整理と発信っていうのは非常にいいことだよと。これを2つくっつけると、面白い発信になるんじゃないかなって、私、今、思っているところです。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。
午後1時59分 休憩

午後2時09分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。17番佐々木大三郎君の一般質問でございます。17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 空き家対策について、引き続き関連質問させていただきます。

私の認識では、都会暮らしの方は庭付きの一軒家と休日の家庭菜園に憧れを抱いている方が多いように思います。幸い遠野東工業団地にSMCさんの工場増設が計画されているようですので、社員住宅として空き家の活用を積極的に提案されてはいかがでしょうか。

特にですが、上郷町と宮守町の子育て支援住宅構想は今立ち消え状態ですので、ぜひ真剣に御検討頂きたいと思います。答弁願います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） そこから始めるべきかなというふうに思っていました。仕事があれば、今度はあとライフスタイルということになりますので、できるだけ遠野を満喫した生活ができるようにという売込み方がいいのかなというふうに思っていました。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 大変すばらしい御答弁でした。期待してお待ちしていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、大項目3点目の質問、財政状況と市民サービスについて伺います。

市長は、さきの市長選挙で、当市の財政状況は危機的状況にあると述べられておりました。一方で、市当局は、健全財政の範囲内にあると常々説明しております。この違いはどこから来ているのでしょうか。市長に御就任されて、財政の状況を詳細に把握できたことと思いますので、改めて財政の現状認識について伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 健全財政である指数というのがあって、その範囲というものがあります。その範囲に入っております。

でも、私はこれまで一般的に企業をコンサルしたり様々な中で、このまま行ったらどうなるだろうか、当たり前のことをやったらどうなるだろうかということで見えています。

そうすると、市のほうで発表している中でも、このままいくと基金は8億円になります。そういう広報でのお知らせもありました。そして、道路計画、0.1%しか進まなかった。水道の事業、先ほども質問がありました。経常収支、赤字に転落しています。物件費35億円あります。これらがあと何年したら完全に危機になるとお

考えでしょうか。このことが私から見る危機です。

そして、今、先ほども申し上げたように、その指数の中に入っているのは何でかと言いますと、努力です。午前中も申し上げました。職員の努力です。

だから、心を鬼にして予算を切っていくと、道路がいくら傷もうがその金額以上できない。あそこにお金をつぎ込むから、ほかのところからこのぐらいのお金は準備しなければいけない。こういうやり方というのは、私からすると危機的なやり方です。

ですから、指数は入っていても、内容、流れは危機であると、なぜならば、使いたいところに使えないからです。そういう理解でございます。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 安心いたしました。私も市長の認識と同じ思いであります。

といいますのは、毎年総務省のほうに報告が義務化されているわけですが、財政の健全化判断比率、これによりますと財政内容はいずれも基準内に収まっております。また、歳入と歳出の釣合いが取れた均衡財政にもなっておりますので、健全財政であると、これは言えると思います。

しかし、当市の財政状況、これを私なりに詳細に分析しますと、大きな課題が見つかってまいりますので、御紹介させていただきます。

それは、全世帯に毎年配付される「もっと知りたい！遠野の予算」によりますと、10年前、平成23年の貯金額は50億円でしたが、令和3年度には21億円まで急激に減少しております。何と29億円も貯金が減ってしまったことになるわけです。

さらに、建物などの物件費に係る経常収支比率、これは、類似する全国の自治体と比較して最悪状態、すなわち一番悪い状況にあります。しかも、これが年々悪化しております。改善の兆しすら見えてこない、これが今の財政状況

です。

この原因の一つは、これまで街場を中心に建物整備に多くの予算を投じてまいりました。その結果、公共施設の維持管理費は年々増加しております。

例えば、平成28年度は17.4億円であったものが、令和2年度は20億円まで増加しております。さらに今後も、こども本の森や後方支援資料館の維持管理費などが加算されてまいります。

一方で、令和4年度の当初予算のうち市税等の自主財源は僅か45.8億円です。このことからお分かり頂けるのは、市が自由に使える自主財源の半分は、建物の維持管理に費やされる、消えてしまう、市民サービスに回すお金は常に不足状態に陥ってる、お分かりのとおりです。

さらに、大規模予算を必要とする水道管、同僚議員との質疑応答でも交わされましたけども、この水道管、あるいは市道、水路、公共施設の老朽化が著しく進んでおりまして、一刻も早い改修が待たれております。

以上から、当市の財政状況は想像以上に大変厳しい状況に置かれていると私は認識しております。この現状について、再度市長の率直な御見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 今議会でも道路の問題、河川の問題、水道の問題、様々あります。施設の修繕あります。例えば、道路の計画、5カ年計画を立てることに当たって1億円増やしたとします。0.1%増えません。そういう状態です。

ですから、1億円増やして道路やる、0.1%増えます。0.2%になります。水路計画やりません、同じです。こういう状態が続く限り、市民サービスに怠りが出てくる、この可能性があるというふうに思っています。

ただ、市民も議員の方々も、施設に関して、道路に関して、修繕しなければいけない、見直さなければいけない、そういう声が大きいです。これは、そこに応えつつ進めなければいけない。そうすると、何かを減額するか、新

たにお金を生むか、そういうことになります。

お金を生んでいくという方法を考えながら、これから市政を進めなければやっていけない。稼げる市町村になっていかなければやっていけないというのが私の実感です。ですから、民・間、民の力を活用して稼げる遠野市というところを進んでいきたいと思えます。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） ただいま私から述べさせていただいたとおり、当市の財政状況は、自主財源の大半を公共施設の維持管理に回さざるを得ない厳しい状況にあります。その原因は、せっかく造った建物を有効に活用していないことや、遊休施設を発生させていることにあると私は思います。具体例を御紹介しながら質問させていただきます。

これは、前本田市長にも度々申し述べてまいりましたが、中心市街地活性化基本計画についてであります。この事業は10年間にわたる長期事業で、既に令和2年度末をもって完了しております。事業目的は、中心市街地を昔のように活性化させるということで、観光施設への観光客の入り込み目標数を10万人に掲げて、ハード工事に100億円を投入してまいりました。御案内のとおりです。

にもかかわらず、観光客の入り込み数は目標値の半数の5万人程度に低迷しております。また、商店街の人通りと売上げは大幅に減少して、空き店舗も増加傾向にあります。

この原因は、建物建設のみに主眼を置いて、観光客を呼び込むための知恵や工夫、イベントといったソフト面の対応が手薄であったためと、これは私自身反省しているところであります。

そこで、多田市長には、中心市街地活性化に向けた観光客の入り込みについて、これまでの経験やノウハウを生かし、関係機関とも連携しながら改善策を見いだしていただきたい。これこそがまさに市政刷新であると私は思います。いかがでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まさにこの件についてはスタートを始めました。中心市街地活性化事業というのは、私の中でその中心市街地という考え方自体に疑問があります。様々な地域に中心となる市街地、宿場町があったりしております。その中で、観光客だけじゃなくて、地域の人たちも楽しめるような地域、これをつくるってことが重要だと考えています。

そして、遠野にはいろんなコンテンツがあります。観光の材料があります。そのポテンシャルの高さというのは日本でも有数だと思います。これを使って活動している人たちはかなりいます。でも、これがバラバラだったり、認め合っていないかったりしています。その先には、今度は観光協会であったり、観光推進協議会であったり、そういう状態になっています。

これをしっかりと一本化して、そのシステムの中でみんなが活躍できるようにしていく、そして遠野の発信、さっきも申し上げました。遠野のプライドの発信、遠野の価値の発信、これをホームページ等を改善して進めていきます。そうやって増やしていかなければなりません。メニューを増やす、発信を増やす、そして、みんなで共通理解して取り組んでいくということをまず進めていきたいと思えます。

そして、お金は計画を立てるためのお金ではなくて、いろんなものを実行するためのお金、中心市街地の建築以外の部分です。実行するためのお金に変えていきたいと思えます。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 期待しております。これ以上ですねハードにお金をつぎ込む必要はないと思えます。ぜひアイデアを出す、ソフトに充実していただきたい。一日も早く昔のにぎわいを取り戻していただきたいというふうに思えます。

関連質問になりますが、遠野駅前にあるあすもあ遠野の1階と、旅の蔵の正面にある旧物産センター1階の活用策について伺います。

この両施設は4年間も未使用状態が続いております。これまで何度となく前市長に活用計画をただしてまいりましたが、今もって明確な活用策を見いだせないままでおります。

さらに、去年は東北デスティネーションキャンペーンが4月から9月の期間で開催されるということで、急遽、駅前広場の公園も整備されております。しかし、残念ながら、ここもほとんど活かされていない。これが今の現実であります。

当エリアは、当市の表玄関口であり、遠野の観光と物産の情報発信エリアと位置づけて、多額の予算を投入して整備してまいりました。

ちなみに、あすもあ遠野には3億円も投入しております。整備後の維持管理費も発生しております。しかし、未使用のまま捨て置かれてきました。これは、まさに税金の無駄遣いであり、市政の怠慢、危機感の欠如と強く指摘せざるを得ません。

御就任早々の多田市長には大きな難題かもしれませんが、この事業は当市の一丁目一番地ですので、一日も早い改善策を見いだしていただきたい、そういうふうに思います。答弁願います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私、萩野議員の一般質問のときにもお答えしましたが、中心市街地活性化、遠野市役所、駅舎、あすもあ、絡めたときに、遠野市役所の庁舎も含めて計画的に遠野ならではのスタイルでやりたかったというのがまず第一印象でございます。

でも、ずっと私があそこ毎朝通ったり、毎晩通ったりしている中で、使いたかったところの一つです。あの施設は、今年度中にはしっかり、まだ新年度ですか。使えていくようになると思います。そのために様々な企画を準備しております。例えば、寺子屋でもそうです。グローバル教育を自然にできるようにすることでもできます。

いずれにしてもあそこはオープンにして、外

からも見えながら、人も入りたくなるようなものにしていきますので、御期待頂ければと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） どのような活用策を見いだしていただけるのか分かりませんが、期待してお待ちしております。

せっかくですので、私からも何点か提案させていただきたく思いますので、参考にしてもらえればと思います。

まず、あすもあ遠野1階の活用策についてですが、この建物は、観光の情報発信基地という名目で造られております。当然、国からも補助金が入っております。そこで、観光に関わる情報発信機器類を常備されてはいかがでしょうか。さらに、しし踊りなどの郷土芸能の定期的な実演、あるいは、希望する観光団体のふれあいスペースとして開放されてはいかがでしょうか。

それと、この際、観光の情報発信基地という看板を取り下げていただいて、コールセンターなどの事務室として変更活用する、これも有益じゃないかなというふうに私は考えますが、いかがでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） いい使い方だと思います。人がとにかく集う、発信の拠点となる、これから観光協会が力が入ってきます。恐らく人も増えるだろうと思います。観光協会が中心となって、遠野の観光の発信を様々していきます。そうすると手狭になる可能性があるし。

もう一つは、期待されている小売、雑貨に近いもの、雑貨店、コンビニとは言いません。雑貨店のようなものが欲しいという声もあります。そうすると、旅の蔵のほうをさらに物販というところでは力を入れなければいけないかもしれない。この辺の組立てをしていったときに、当然今のお話も出てくるというふうに思います。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 次に、旧物産センター1階の活用策を提案させていただきます。

この入り口は、観光客と市民が利用するバスの発着所になっております。また、このエリアは中心市街地の玄関口でもあります。したがって、当面はですが、バス利用者の待合室として活用されてはいかがでしょうか。御見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） それは一番、バスの乗り場としては近いし、いい使い方だと思います。そこから始まるというのはあると思います。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） ぜひ前向きに進めていただきたいと思います。

次の質問に入ります。

昨年末に市長と市民の懇談会が、みんなの井戸端会議という名目で開催されました。どこの会場も多くの市民が出席されたようですが、私の地元上郷町でも、これまでになかったほどに多くの方が集まり、たくさんの意見が出されておりました。その意見の大半は、市政への不平不満と、市内に漂う閉塞感の改善要望のようなものでした。

主な意見を御紹介しますと、建物中心の市政から、市民サービス向上に予算を回してほしい。例えば、地区センターの雨漏りや床の傷み、暖房の故障など、これをまずは早く直してほしいということでした。さらには、少子化問題、農業問題、道路・水路の改修、総合交通対策等々身近な市民サービスに関わるものばかりでした。

市長と同席された部課長、生の声をお聞きになって、かなり耳が痛かったことと私は感じております。

このような市民からの悲壮感漂う御意見・御要望に対して、今後、市長はどのような形で市政に反映させるおつもりなのか伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まず、道路とか水道とか、先ほども申し上げましたが、こういうものについては、全体計画の中で計画を見直すということ、それと、これは思い切って予算を増やさなければなりません。進歩しません。ですから、その方向で考えるということです。

施設に関しては、各地区センターの改修を始めております。各地区センター、約2,000万円程度の予算を投下してやっていくという形で進めております。御意見・御要望は2,700万、3,000万かかる、あります。でも、これみんなやっていったら、同じようにやっていかなければなりません、迅速に。これを苦しい思いで調整しながら進めています。

ただ、軽易な部分、床のちょっと離れているとか、ちょっとした工夫で済むような部分は何も構えてやらなくてもすぐできるだろうというふうに思っています。そのための予算は少し増やしてあります。これまでの小規模工事、その他の対応する予算とすれば倍になっているはずです。

その小規模工事については、地域の中堅、小規模建設事業者さんをお願いしてやってもらえるようにという方向でやっています。より地域に密着した形でそういうものが有効になっていけばというふうに思います。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 個別具体的な質問、提言をしながら議論をさせていただきました。

市長におかれましては、この財政が大変厳しい中で、山積する課題を一気に解決するのはもちろん困難かもしれませんが、いずれ市民の期待に応えられるような市政運営に心がけていただきたい、これは強く要望して質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） これにて一般質問を終了いたします。

月3日は、委員会審査のため休会いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（浅沼幸雄君） 御異議なしと認めます。よって、3月3日は休会することに決しました。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。本日はこれにて散会いたします。お疲れ様でした。

午後2時34分 散会

散 会

○議長（浅沼幸雄君） お諮りいたします。3